

熊本地震を踏まえた応急対策・生活支援策検討WG 2016.9.29

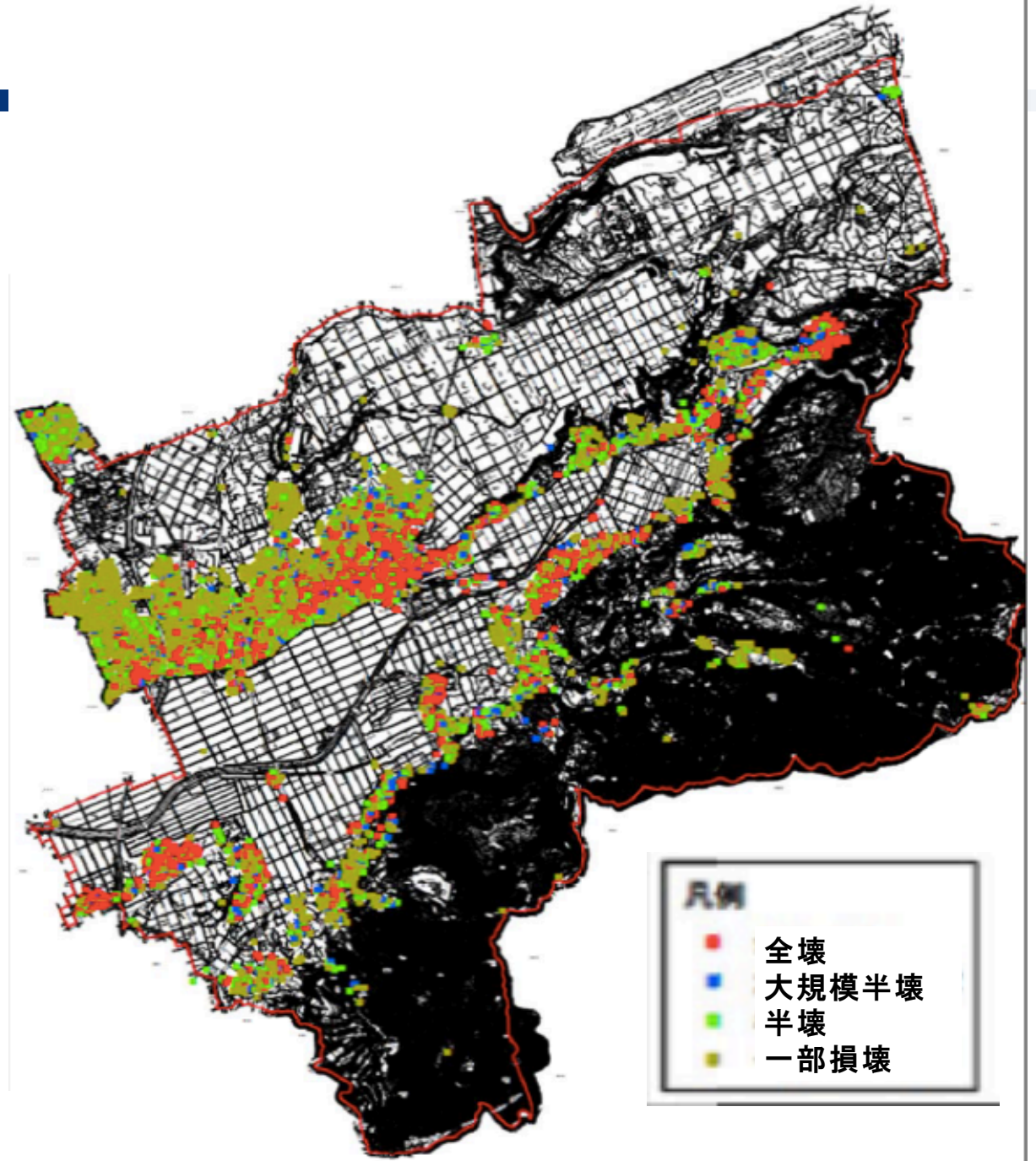
益城町仮設住宅での聞き取りと 災害時社会調査のあり方について



熊本大学 円山琢也

益城町被害概況

- 2回の震度7
- 人口3.3万人
- 死者 23名
- 住家1.1万のうち
全壊+大規模半壊:
約4300
半壊: 約2400
- 町役場 職員数 160人
- マンパワー不足



益城町仮設住宅での聞き取り調査概要

目的

- (1)現時点で不自由な点, 不安などを幅広く伺う
- (2)今後のお住まいに関する希望を伺う

手法

熊本大学の学生が2人1組で1軒ずつ訪問

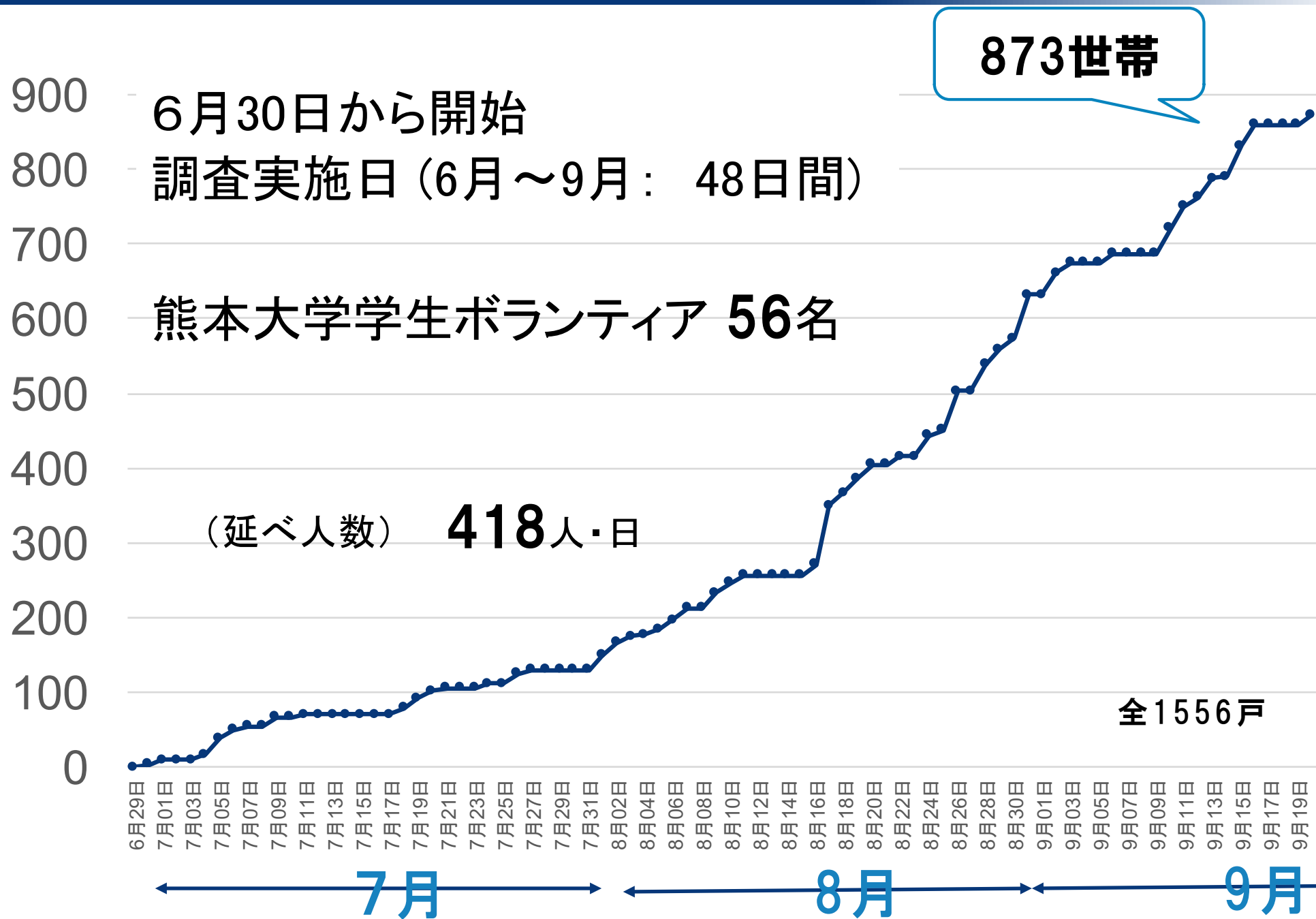
【時期】カギ渡し日から2週間後

※不在世帯は何度も訪問

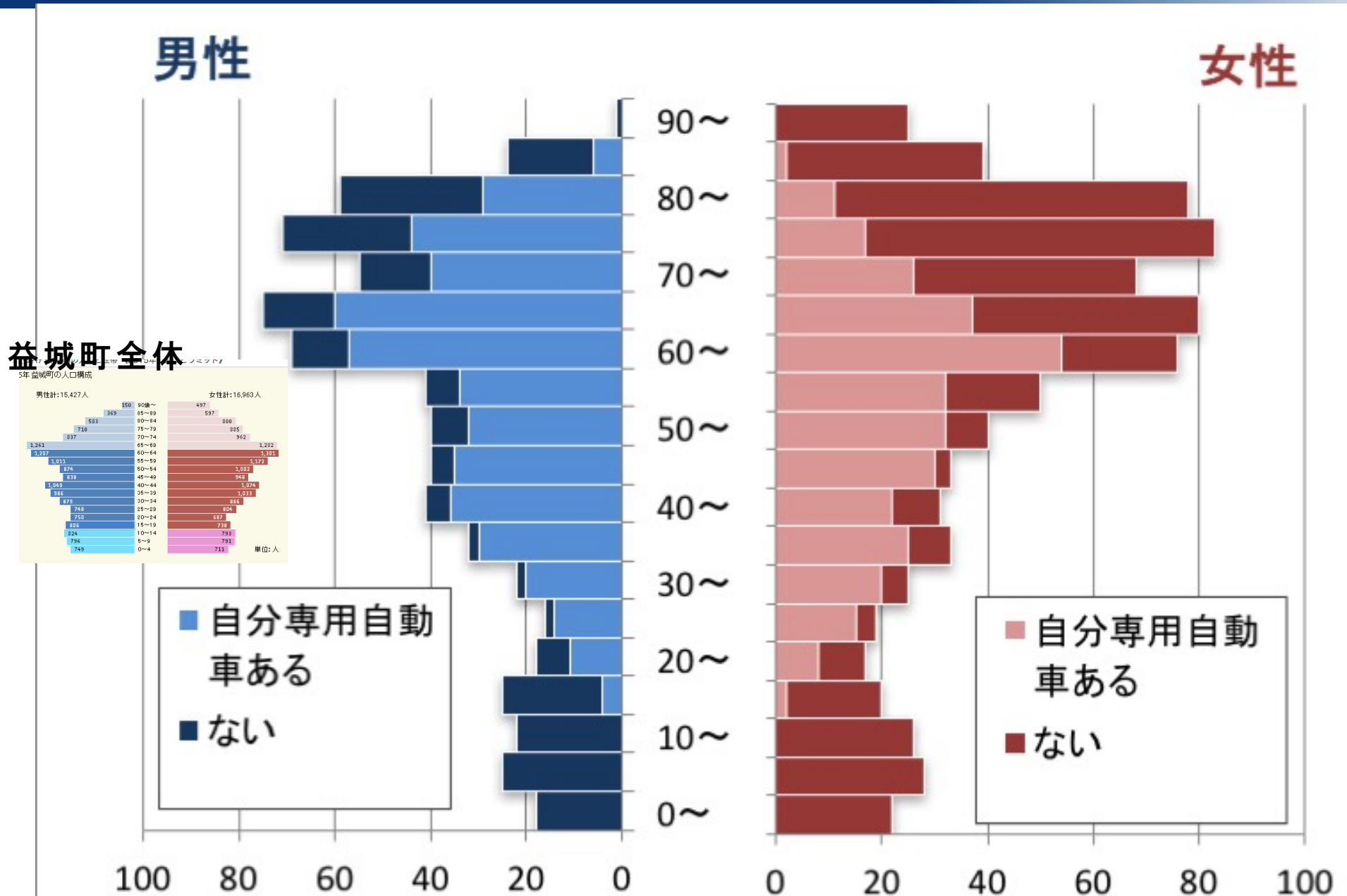
短くて 10~15分, 長い場合は1~2時間
じっくりお話を伺う



調査実施済みの世帯数推移 (9/20時点)

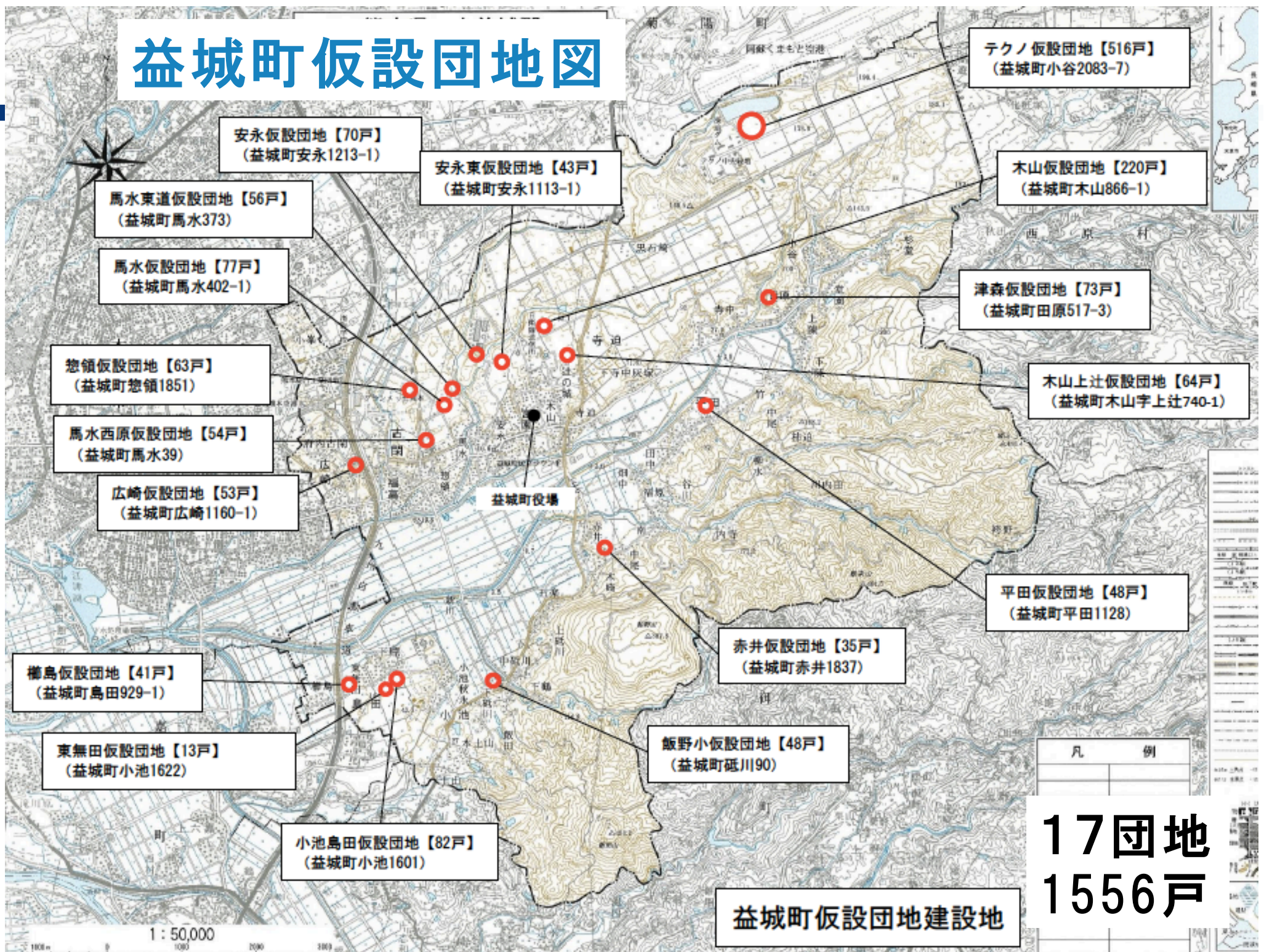


益城町仮設住宅居住者の人口ピラミッド



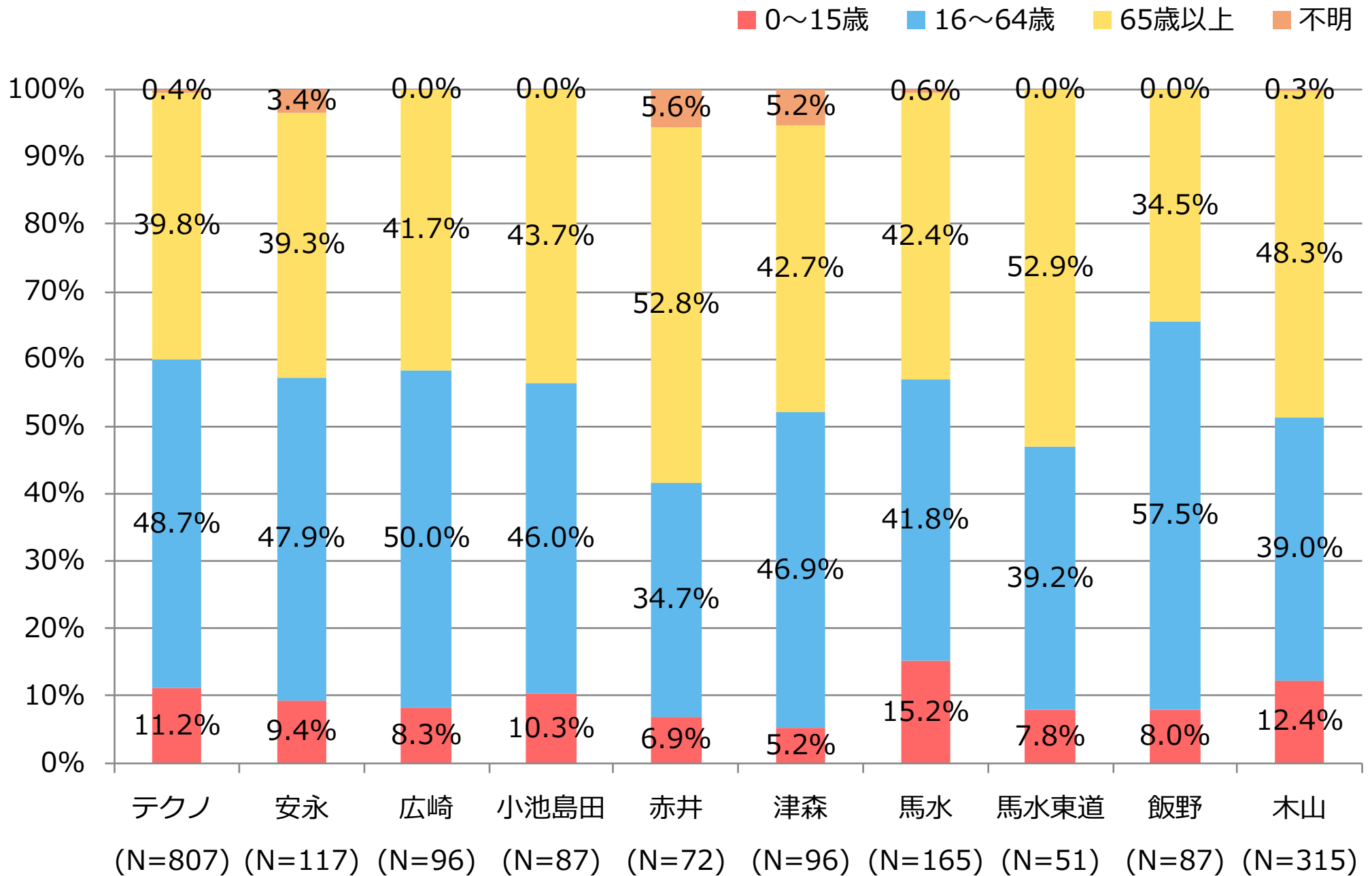
6月30日～8月31日分 N=1487

益城町仮設団地地図

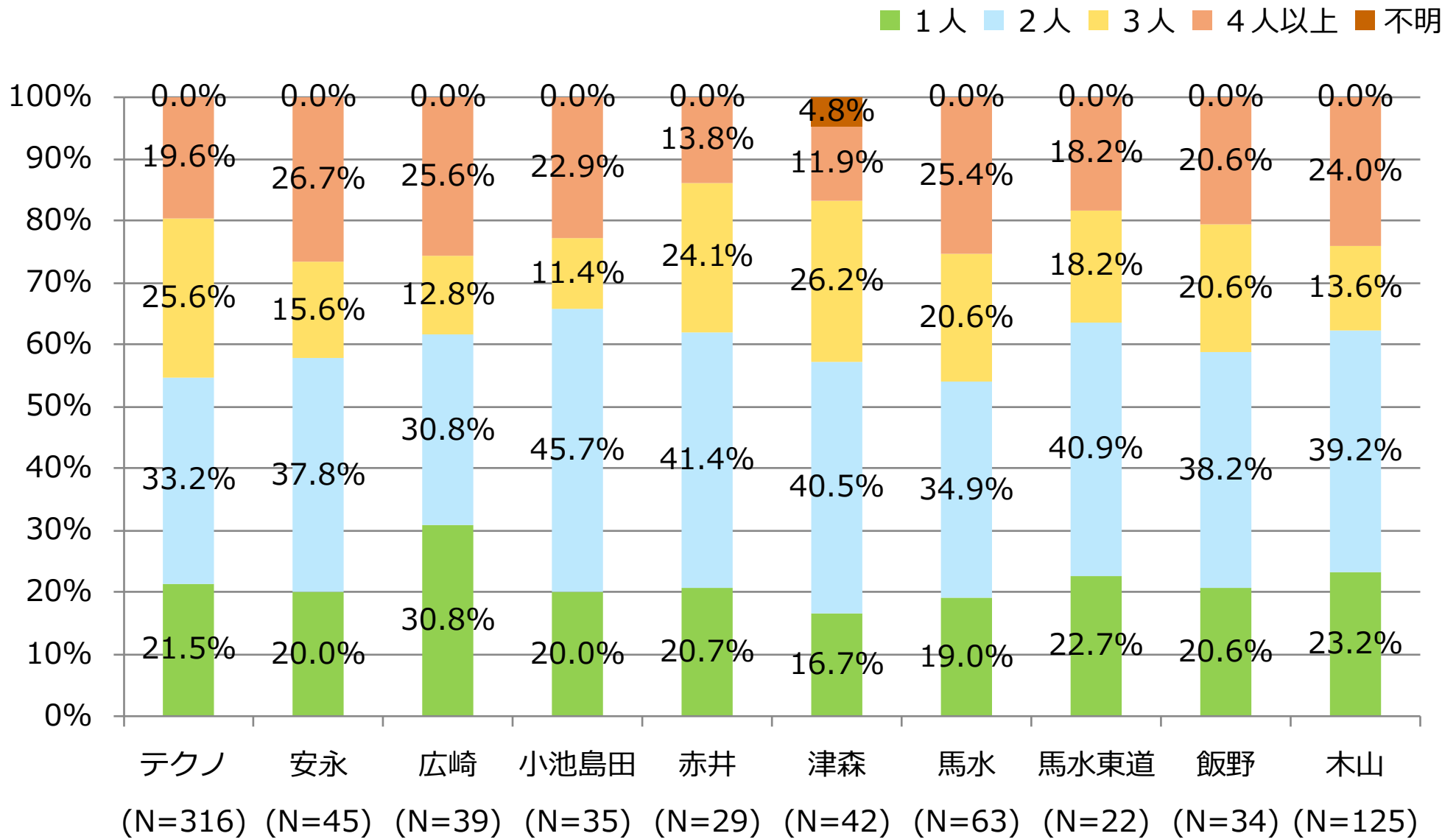


17団地
1556戸

仮設団地別 入居者の年齢分布

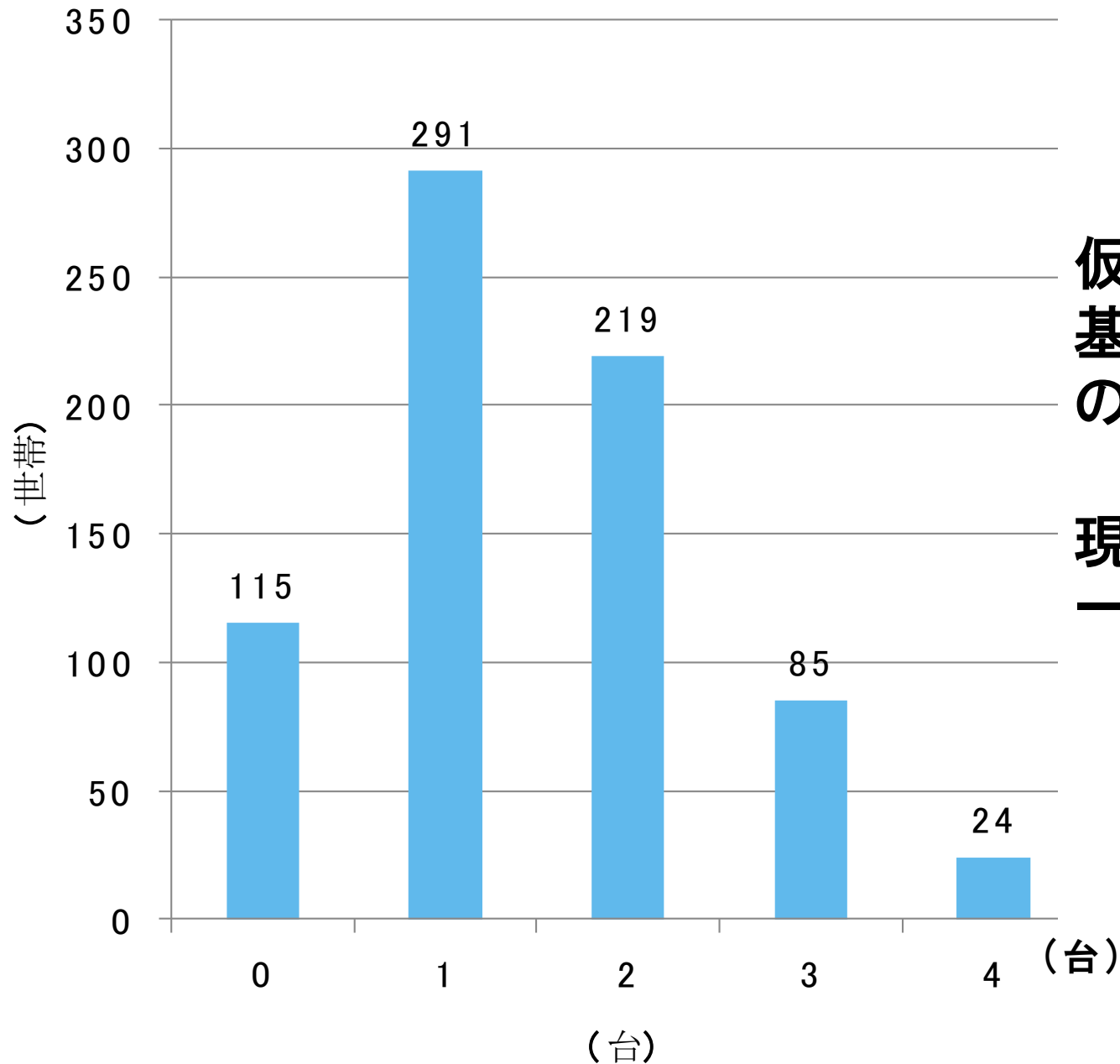


仮設団地別 世帯人数



孤立化対策 特に男性一人暮らし

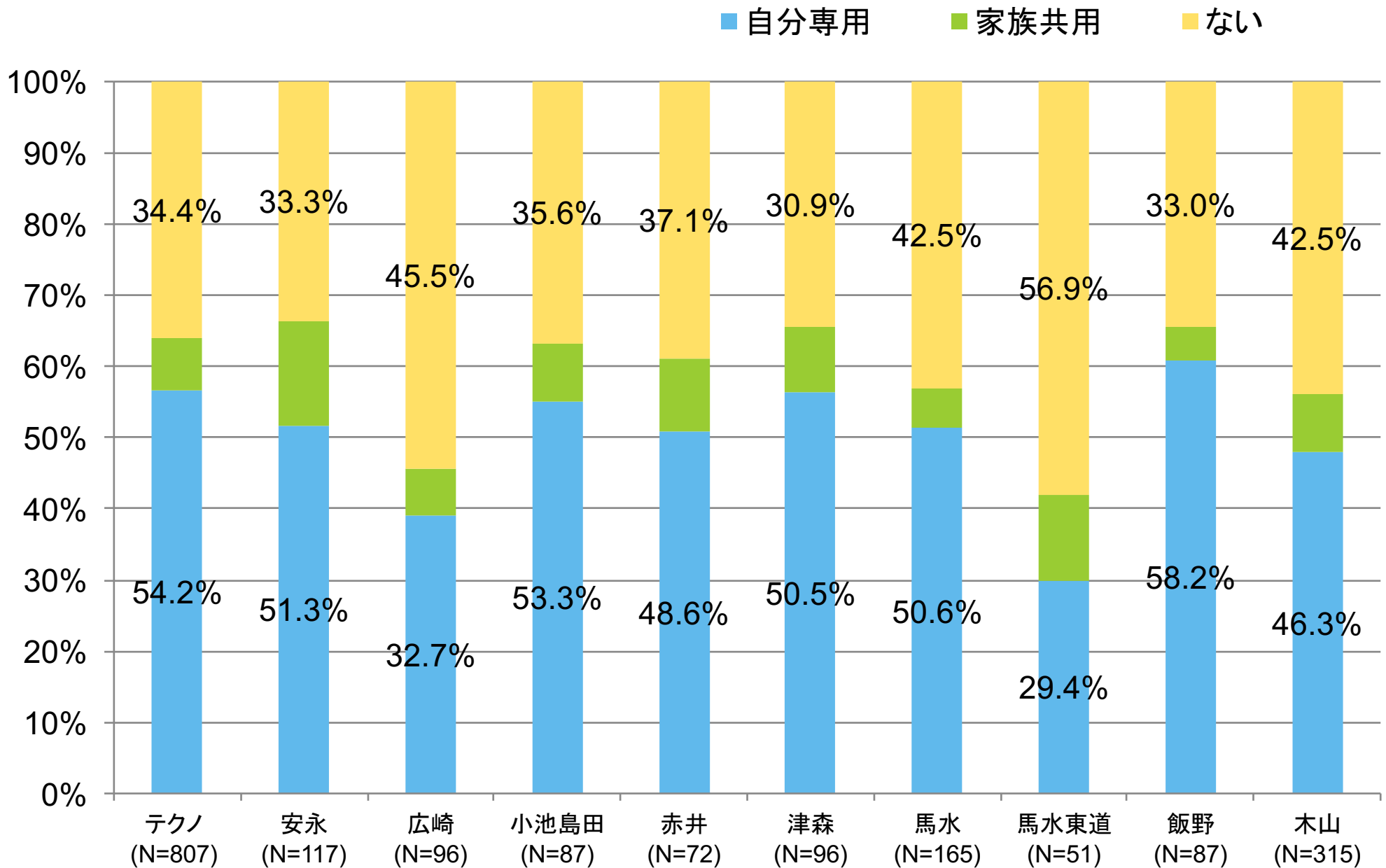
仮設1世帯あたりの自動車保有台数



仮設団地は
基本1世帯1台分
のみの駐車スペース

現役世代は
一人一台保有

仮設団地別の自動車保有状況



仮設居住者の地震前の住居と被災状況

所有形態と住居形態

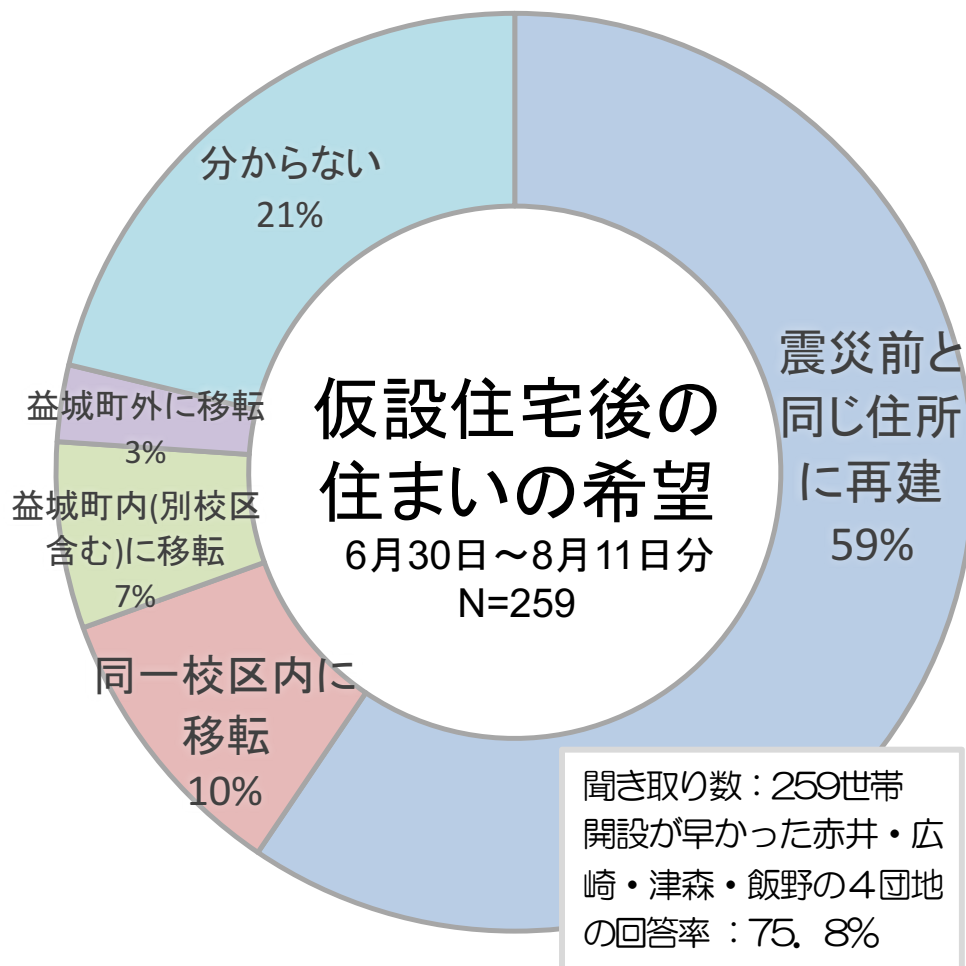
| | 持家 | 借家 | その他 | 総計 |
|------------|-----|-----|-----|-----|
| 一戸建て | 630 | 44 | 12 | 686 |
| マンション・アパート | 3 | 52 | 1 | 56 |
| その他 | 2 | 4 | 2 | 8 |
| 総計 | 635 | 100 | 15 | 750 |

被災状況

| | 全壊 | 大規模半壊 | 半壊 | その他 | 総計 |
|------------|-----|-------|----|-----|-----|
| 一戸建て | 584 | 57 | 37 | 8 | 686 |
| マンション・アパート | 45 | 7 | 4 | | 56 |
| その他 | 4 | 2 | | 2 | 8 |
| 総計 | 633 | 66 | 41 | 10 | 750 |

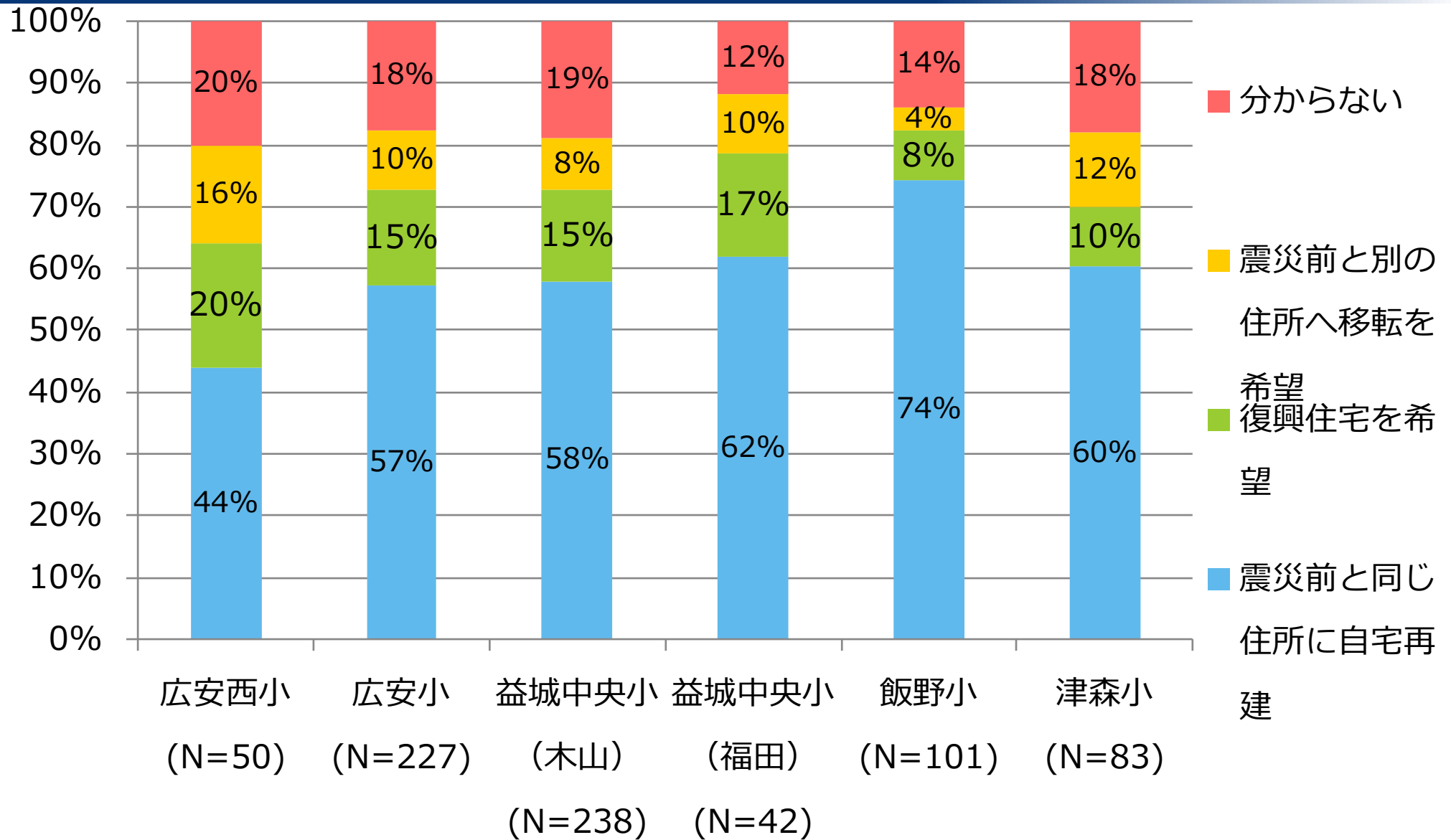


今後の住まい



- 自宅再建が理想だが経済面で厳しいので復興住宅ができればそこに住むのも良い
- もともと住んでいた地区に復興住宅を建設してほしい
- 自宅再建の予定だが平屋にする予定
- 家族が一緒になって住める家屋を希望
- 益城町は住み慣れている。愛着もある。
- 再建できる地盤が分からないが、元の場所が良い
- 子供の校区を変えたくない
- お金が無いから先のことは考えられない
- 車を運転できなくなるかもしれないからバス停の近く

小学校区別 仮設後の居住意向



都市部 (熊本市側)



農村村部

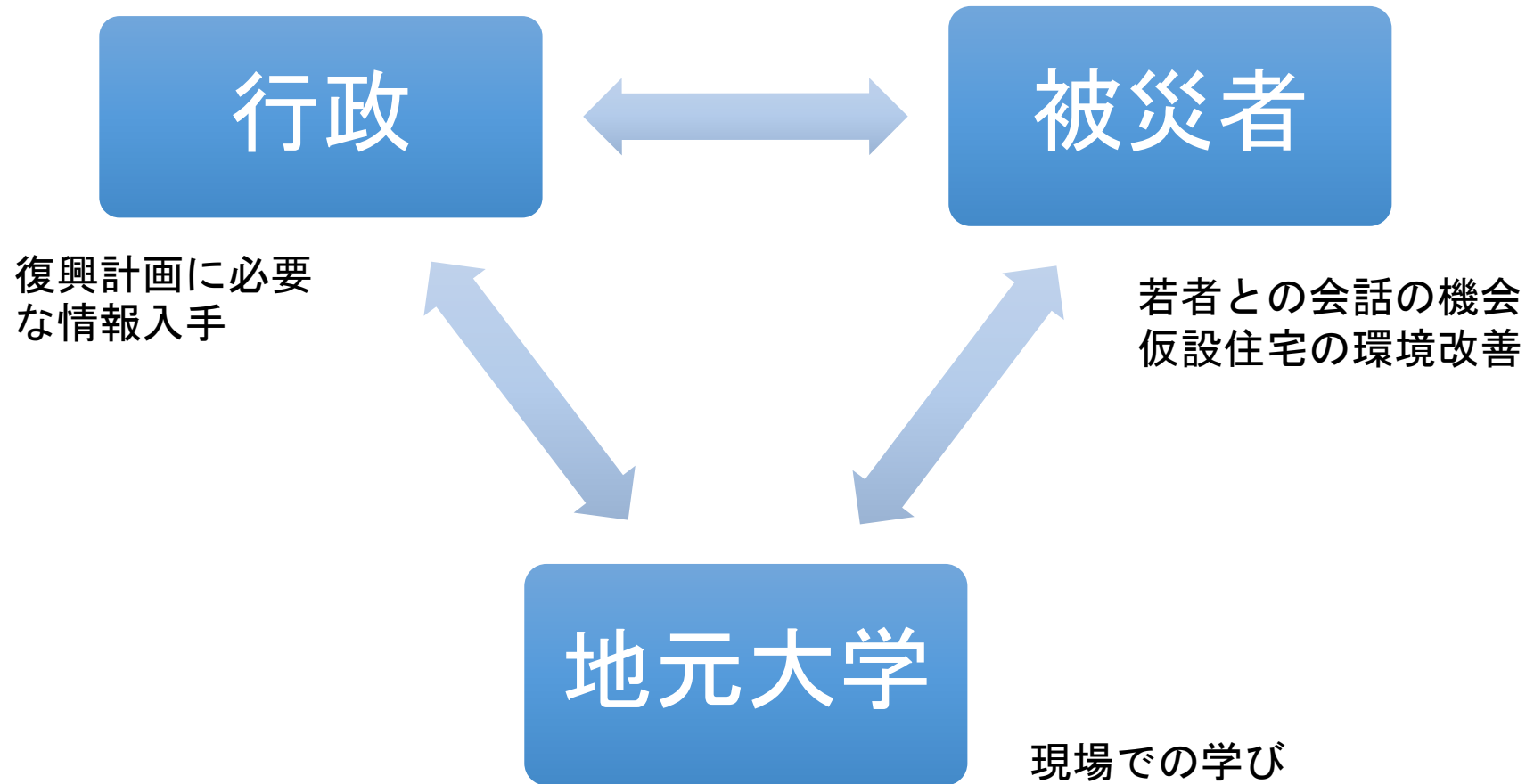
聞き取りの中間まとめ と 今後

- 古くからの住民 (農村部) は自宅再建を希望
- 新住民 (熊本市のベッタウン) は 別位置再建も多い

- 経済的に厳しい高齢者世帯は復興住宅 (災害公営住宅)希望
- 持ち家 の広い 一戸建て → 平屋の再建意向多数
- 自宅が再建できる地盤かどうかの情報を住民は求めている

- 仮設団地別に特性が異なる
(年齢分布・就業状況・自動車保有状況・コミュニティ形成)
- 特性に応じた支援が必要: 地域支え合いセンター, デマンドタクシー, タクシーチケット配布 etc

- 半年後, 1年後, 1年半後にパネル調査予定



熊大は益城町の復興を長期に支援します!!

熊本大学でまちづくり・防災・都市計画などを学ぶ学生とその教員は、5月から益城町の復旧・復興活動を継続的に支援してきました。この復興応援便り(ニュースレター)は、その活動の一部を定期的に紹介します。

避難所の環境改善に取り組む熊大生
5月18日 益城町総合体育館



報告 仮設住宅でベンチを製作・贈呈しました



6月15日と20日に仮設住宅(広崎・赤井)で、熊本大学工学部の学生がベンチを製作しました。共用スペースに設置しております。ささやかな試みですが、憩いの場として、井戸端会議や語らいなど、みなさまにご利用いただければ幸いです。

お知らせ 仮設での暮らしと今後についてお話を伺います

益城町と熊本大学の共同で、仮設住宅の住民のみなさまへの聞き取りを実施いたします。入居説明会で説明いたしましたように、目的は右記のとおりです。熊本大学の学生がお話を伺います。ご協力をよろしくお願いいたします。

聞き取りの目的

- ①必要な復興住宅の戸数・希望される場所を把握する
- ②現在の不自由な点、ご不安なことを幅広く伺う

熊大生が仮設住宅でお話を伺っています

6月30日から益城町と熊本大学の共同で仮設住宅(赤井・広崎・津森)での聞き取りを行っています。内容は、仮設での暮らしで不便なこと、今後の住まいへのお考えなどです。他の仮設住宅にも今後順次お伺いしますのでよろしくお願いいたします。



聞き取りの結果速報 6月30日(木)から7月9日(土)実施分まで

お話を伺った戸数：赤井 16戸、広崎15戸、津森25戸 合計 58戸
皆様の声の一部を紹介します。結果の詳細は順次お知らせします。

- ・いつまで仮設にいられるか不安
- ・仮設に入れただけでありがたい
- ・早くがれき撤去や解体をして欲しい
- ・周りに買物できる場所が少ない
- ・近所付き合いもあるので元の家に帰りたい
- ・役場の人が一番大変だが丁寧に対応してくれた
- ・インターネットがないと役場からの情報がすぐには分からない
- ・益城町中心部の被害だけが注目されがちだが、杉堂などの周辺部も被害は大変で忘れてほしくない
- ・ボランティアさんの活動がありがたかった
- ・今回、話をすることがストレス発散になった

七夕の願いが届きますように!



広崎と津森の仮設団地での七夕飾りに熊大が協力しました(7月5-7日)。住民の皆様が短冊に書かれた願いがかなうようメンバー一同で支援を続けたいと思います。

益城に
元気で自然豊かな
生活が戻りますように

仮設の皆さんが
病気をしませんように

2年後には自宅に戻って
生活ができますように

仮設住宅での聞き取りを継続しています

益城町と熊本大学の共同での仮設住宅での聞き取りを6月末からつづけています。仮設での暮らしで不便なこと、今後の住まいへのお考えなどを伺っています。大学生が2名一組で一軒一軒訪問しています。8月からは、他大学等からの応援もいただきながら、全戸訪問の予定です。ご協力よろしくお願いします。今後、復興計画策定委員会等へ聞き取り結果の中間報告をしていきます。



学生ボランティア団体「熊助組」を紹介します



「熊助組」は、熊大生の学生災害復旧支援団体です。2007年6月に結成し、今年で9年目を迎えます。メンバー総勢50名を超え、熊本地震においても支援活動を県内各地で行っています。今回の災害支援への累計活動人数は280名を超えています。

にゅうめんの炊き出しをしました！

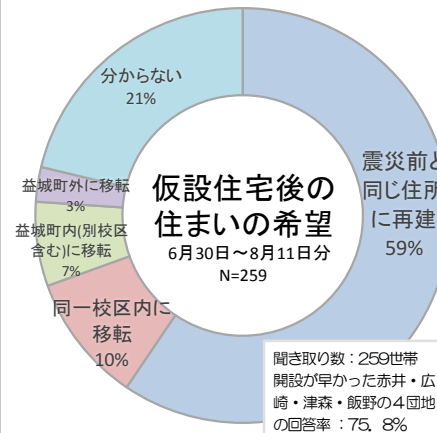
7/17(日)に「熊助組」と香川大学が協力して、益城町内の避難所で「釜揚げそうめん風になゅうめん」の炊き出しを行いました。梅雨明けも間近の暑さの中でしたが、アツアツのになゅうめんは避難者や近所の方々にたいへん好評でした。



熊本大学復興支援プロジェクト
発行担当：熊本大学政策創造研究教育センター 円山
電話 096-342-2044(代表) メール：takumaru@kumamoto-u.ac.jp

仮設住宅聞き取りの途中経過を報告します

熊大生が仮設住宅での聞き取りを続けています。仮設での暮らしで不自由なこと、今後の住まいへのお考えなどを伺っています。仮設住宅の環境改善の要望は役場へ伝えていきます。また、復興住宅の計画などに皆様のご意見が反映される予定です。熊本学園大学など県内外の大学の応援もいただきながら、ボランティアでの聞き取りを続け、今後全戸訪問予定です。ご協力をよろしくお願い致します。



- ・自宅再建が理想だが経済面で厳しいので復興住宅ができればそこに住むのも良い
- ・もともと住んでいた地区に復興住宅を建設してほしい
- ・自宅再建の予定だが平屋にする予定
- ・家族が一緒になって住める家屋を希望
- ・益城町は住み慣れている。愛着もある。
- ・再建できる地盤が分からないが、元の場所が良い
- ・子供の校区を変えたくない
- ・お金が無いから先のことは考えられない
- ・車を運転できなくなるかもしれないからバス停の近く

住民意見交換会の運営支援をしています

7月28日から連日開催されている益城町復興計画策定に向けた住民意見交換会の運営をボランティアでお手伝いしています。住民の皆様からの様々な意見・要望に対して町長・町職員の方が毎回丁寧に回答されています。

休みなく働き続けている役場の方々の負担が少なくなり、また一日でも早い益城町復興が実現できるよう我々も微力ながらお手伝いを続けたいと思います。

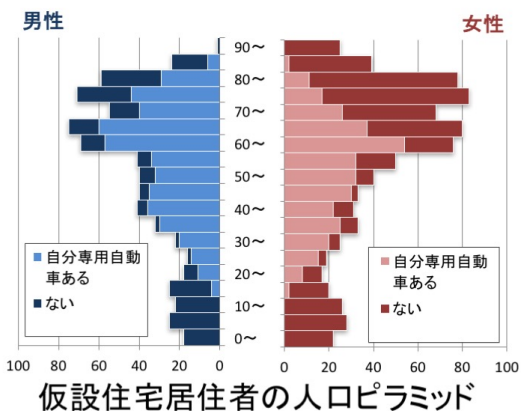


熊本大学復興支援プロジェクト
発行担当：熊本大学政策創造研究教育センター 円山
電話 096-342-2044(代表) takumaru@kumamoto-u.ac.jp



仮設住宅聞き取りへのご協力ありがとうございます

熊大生による仮設住宅での聞き取りを6月末から継続しています。9月3日までに675世帯からお話を伺うことができました。お話する時間はお忙しければ10分から15分ですが、1時間を超えて発災時からのご経験や地震前の生活などをお聞かせいただいたこともあります。益城町の復興計画にご意見を反映したいと思えます。また学生の学びの機会をいただいていることにも感謝いたします。



- ぜいたくは言えないが、仮設は狭い
- 車を運転できないが家族(知人)に送迎してもらい病院や買い物へ行っている
- 空港から離着陸する飛行機を撮影するのが趣味になった(テクノ団地居住者)
- 近所の方が近くの仮設に住んでいてよかった
- ポスト、ATM、街灯、ミラー、出張所等が欲しい
- 倒壊した家に埋まっている仏壇を早く捧みたい
- 高齢者だけでなく働く母親世代のことも考えて
- 熊本高森線は四車線化するべき
- 孫の世代に向けて地震に強いまちにしたい
- ラジオ体操をしたい
- 明るく楽しく仮設住宅での2年間を過ごしたい
- 若者があふれるまちづくりを!

定期的な活動報告

調査結果の速報

信頼関係

インターネットにアクセスできない住民

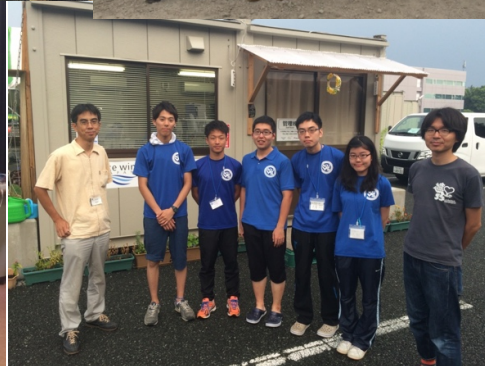
県内外の大学とも一緒に活動しています

仮設住宅の聞き取りは、熊本大学のほか、熊本学園大、熊本県立大、青山学院大、九州大、九州工業大、佐賀大、大分大、京都大、東京大、自治医大、関西学院大、慶應義塾大(順不同)など数多くの大学生の有志の方々と協力して実施しています。なかでも青山学院大ボランティアステーション(熊本Pリーダー:松村悠太郎さん)には、10日間にわたり聞き取りやデータ入力などをご協力いただきました。青山学院大のメンバーは、東北の被災地等での支援の活動経験も豊富で、熊本大のメンバーはこれからの活動展開に向けて彼らから多くのことを学びました。益城町の復興に向けて地元の大学生にしかできないことを長期的に続けたいと思えます。

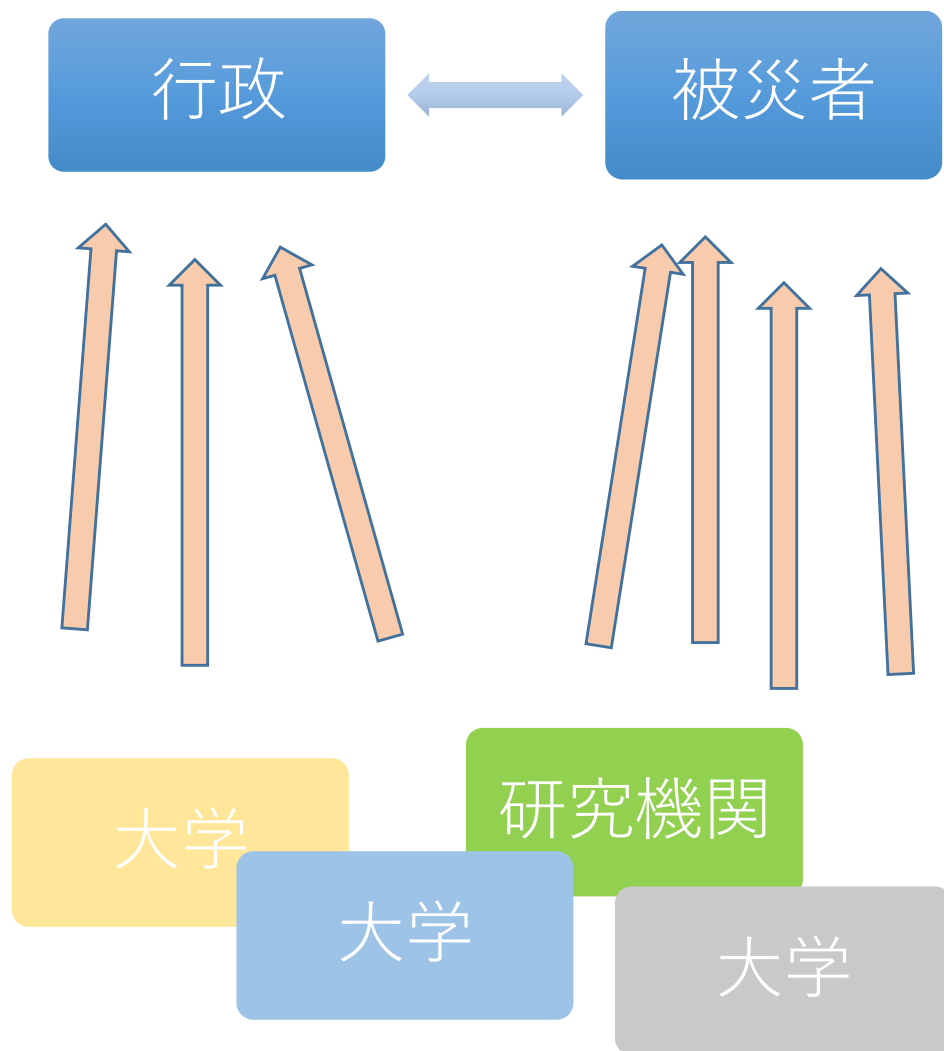


県内外の大学との連携

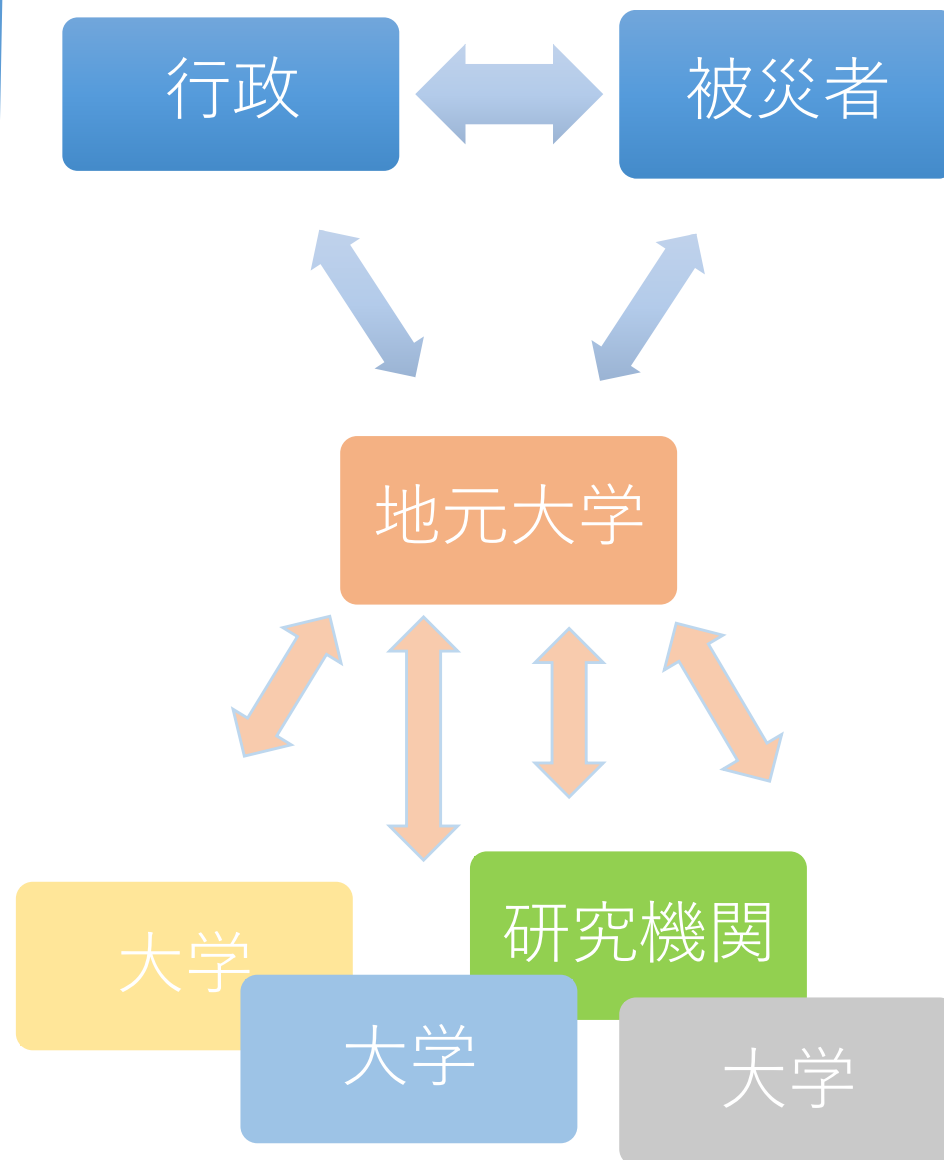
- 熊本学園大学, 熊本県立大学
- 九州大学、佐賀大学、九州工業大学, 大分大学
- 青山学院大学, 関西学院大学, 自治医大, 慶應義塾大学, 東京大学, 京都大学
- 学生有志の皆さん



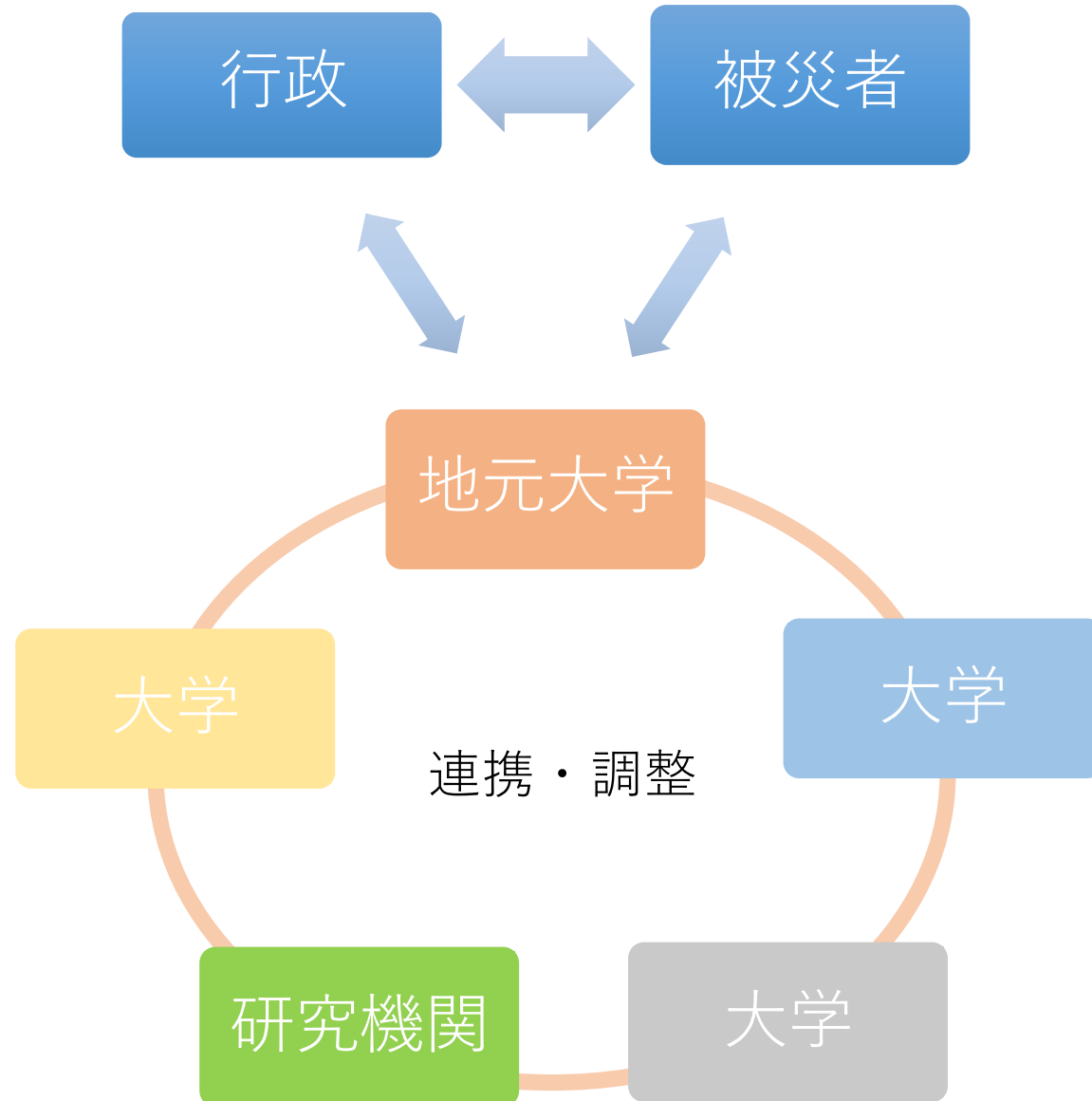
被災地の姿



めざす状態(1) 益城町仮設聞き取り第1弾



めざす状態（2） 益城町仮設聞き取り第2弾以降



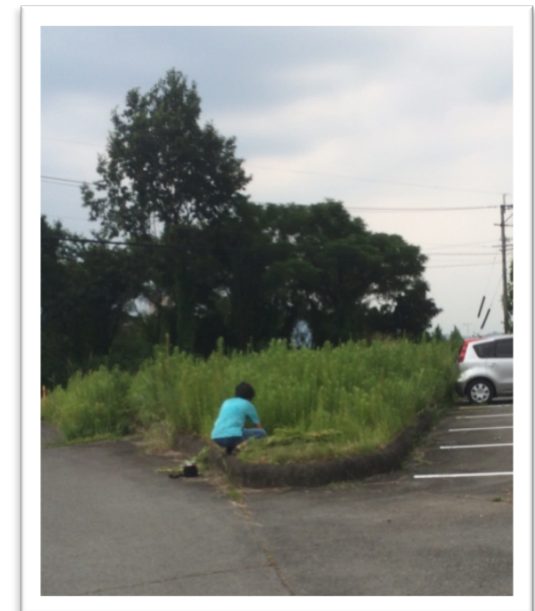
重要と思うこと(1)

- 復興の主役は住民であり，長期的に責任を担うのは町役場
- 住民・役場職員の意志を最大限尊重し，地元大学は迷惑にならない支援を長期的に継続すべき
- 支援者の支援が重要
- 支援者の通常業務を担うことも立派な支援
- 現場のニーズは日々変化
- 長期的な支援の重要性
- 地元の役割
- 休むこと



重要と思うこと(2)

- 「ぬけ, もれ, むら」が無い支援
- プレハブ仮設居住者だけが被災者ではない
- みなし仮設居住者に町に帰ってきてもらえるように
- 被災者の自立につながる支援を
- フットワークの軽さ, スピード感
- すぐに結果を求めない
- 支援者のマネジメント・連絡・調整
- 活動記録をつける・ふりかえる
- 支援活動の資金確保 (スポンサー探し)



被災地での研究活動…

- 研究活動：DVT(血栓症)調査，職員へのインタビュー調査，エスノグラフィ調査，避難所実態調査，トレーラーハウス利用実態調査，車中泊実態調査，コミュニティ形成調査，復興支援バス乗り込み調査，カビ対策調査，健康訪問調査，仮設住宅建築空間調査，活断層調査，地盤調査，トレンチ調査 etc
- ピンポン恐怖症
- 調査公害を乗り越えた研究者の支援とは…
- 必ず結果を地元・町に還元を：一般市民にも分かるコトバで
- 被災者に寄り添う姿勢を忘れずに

參考資料

仮設住宅以降のお住まいについての意識調査

益城町・熊本大学 共同調査

| | | | | | | | |
|----|--|----|---|----|---|-----------|--|
| NM | | ST | : | ET | : | 世帯 SEQ | |
|----|--|----|---|----|---|-----------|--|

この調査は、(1)必要な復興住宅の戸数、希望される場所などを把握する (2)現時点で不自由な点、不安などを幅広く伺いする、ことを目的として行われます。なお、この調査でご記入頂いた情報は復興に向けた各種検討以外の目的で使用することはありません。不審な点、ご不明な点などがありましたら下記担当者までお問い合わせください。地震発生以降大変な状況が続いており、さらに仮設住宅へのご移動でお疲れのところ、たびたびの調査となりご無礼をお詫び申し上げます。
益城町役場:復興課 TEL.096-286-3210 熊本大学:円山琢也(准教授) TEL.096-342-2044

| | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 記入日時 | 2016年 月 日 | 入居(予定)日 | 2016年 月 日 |
| 仮設団地名 | | 住宅番号 | - |

問1 震災前の住所を教えてください。
(例) 益城町宮園

行政区 益城町 ()

問2 震災前のお住まいについて、当てはまるものに○を付けてください。

(1) 住宅の所有

1. 持家 2. 借家 3. 親族所有

(2) お住まいの期間

およそ 年

(3) 住宅の形態

1. 一戸建て 2. マンション・アパート 3. 町営住宅 4. その他()

(4) 住宅に居住スペース以外の次の用途はありますか?(複数回答可)

1. なし 2. 商店等の店舗 3. 会社等の事務所 4. 鉄鋼業などの作業場
5. 農業などの作業場 6. 倉庫 7. その他()

問3 ご自宅の被災状況について、当てはまるものに○を付けてください。

1. 全壊 2. 大規模半壊 3. 半壊 4. その他()

問4 仮設住宅後のお住まいのご希望をお伺いします。

仮設住宅の入居は2年間となっておりますが、その後のお住まいの希望を以下のA~Dから選んでください。

A 震災前と同じ住所に自宅再建

A-(1) 住宅の形態に変更があれば教えてください。

1. 同じ規模での再建 2. 二階建てから平屋への転換 3. 二世帯住宅化 4. その他

B 復興住宅を希望

B-(1) 復興住宅の場所等に希望があれば教えてください。

1. どこでもよい 2. 震災前と同一校区 3. その他

C 震災前と別の住所へ移転を希望

C-(1) 移転先の住所に希望があれば教えてください。

1. どこでもよい 2. 震災前と同一校区内 3. 益城町内(別校区でも可) 4. 益城町外

C-(2) 移転先の住居形態に希望があれば教えてください。

| | | | |
|-----------|------------------------|-----------|------------------------------------|
| 住宅の 所有 | 1. 持家 2. 借家 3. 親族所有 | 住宅の 形態 | 1. 一戸建て 2. マンション・アパート 5. その他() |
|-----------|------------------------|-----------|------------------------------------|

D わからない

裏面に続きます

問5 ご家族についてお尋ねします。(1) 現在の世帯構成と自動車保有台数について、差し支えない範囲で教えてください。

世帯で保有している自動車 台

| | 年齢 | 性別 | 職業 | 勤務先住所 (地区/丁目までで構いません) | 通学先 | いま運転できる車 |
|------------|----|-----|--|-----------------------|---|---------------------------------------|
| 1人目 記入者 | 歳 | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦 5. 学生 6. 無職 7. その他() 8. アルバイト・パート | 市・区 町・村 | 学校名: ()時()分ごろ自宅発～()時()分ごろ自宅着 通学:()分 部活や塾で帰りが遅くなるのが 1. ある:()時ごろ 2. ない | 1. 自分専用 2. 家族共用 3. ない } 左下の(2)へ |
| 2人目 記入者 | 歳 | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦 5. 学生 6. 無職 7. その他() 8. アルバイト・パート | 市・区 町・村 | 学校名: ()時()分ごろ自宅発～()時()分ごろ自宅着 通学:()分 部活や塾で帰りが遅くなるのが 1. ある:()時ごろ 2. ない | 1. 自分専用 2. 家族共用 3. ない } 左下の(2)へ |
| 3人目 記入者 | 歳 | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦 5. 学生 6. 無職 7. その他() 8. アルバイト・パート | 市・区 町・村 | 学校名: ()時()分ごろ自宅発～()時()分ごろ自宅着 通学:()分 部活や塾で帰りが遅くなるのが 1. ある:()時ごろ 2. ない | 1. 自分専用 2. 家族共用 3. ない } 左下の(2)へ |
| 4人目 記入者 | 歳 | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦 5. 学生 6. 無職 7. その他() 8. アルバイト・パート | 市・区 町・村 | 学校名: ()時()分ごろ自宅発～()時()分ごろ自宅着 通学:()分 部活や塾で帰りが遅くなるのが 1. ある:()時ごろ 2. ない | 1. 自分専用 2. 家族共用 3. ない } 左下の(2)へ |
| 5人目 記入者 | 歳 | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦 5. 学生 6. 無職 7. その他() 8. アルバイト・パート | 市・区 町・村 | 学校名: ()時()分ごろ自宅発～()時()分ごろ自宅着 通学:()分 部活や塾で帰りが遅くなるのが 1. ある:()時ごろ 2. ない | 1. 自分専用 2. 家族共用 3. ない } 左下の(2)へ |

(2) 20歳以上の方 (1)の「運転できる車」で1. 自分専用 以外 を回答された方のみ、普段の生活で最もよく行くところを教えてください。

(3) 震災前と比べて世帯人数は変わりましたか？
(例: 転居による減少、別世帯家族の同居による増加など)

| | かかりつけの病院 | 買い物などの日常生活の移動 |
|----|--|--|
| 人目 | 病院名: 頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない 交通手段: (現状: 希望:) | 店舗名: 頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない 交通手段: (現状: 希望:) |
| 人目 | 病院名: 頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない 交通手段: (現状: 希望:) | 店舗名: 頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない 交通手段: (現状: 希望:) |

はい: 震災前は () 人 ・ いいえ

理由

問6 益城町の将来について意見をお聞かせください。

(1) 益城町の復旧・復興において、重要と思う点をお聞かせ下さい。(複数回答可)

1. 生活再建 2. 災害に強いまちづくり 3. 仕事の場の確保 4. コミュニティの維持・強化
5. 災害がれきの処理 6. 子供の教育環境の改善 7. 保健・医療・福祉の体制強化
8. 情報提供・相談体制の充実 9. その他 (次の質問でお答えください)

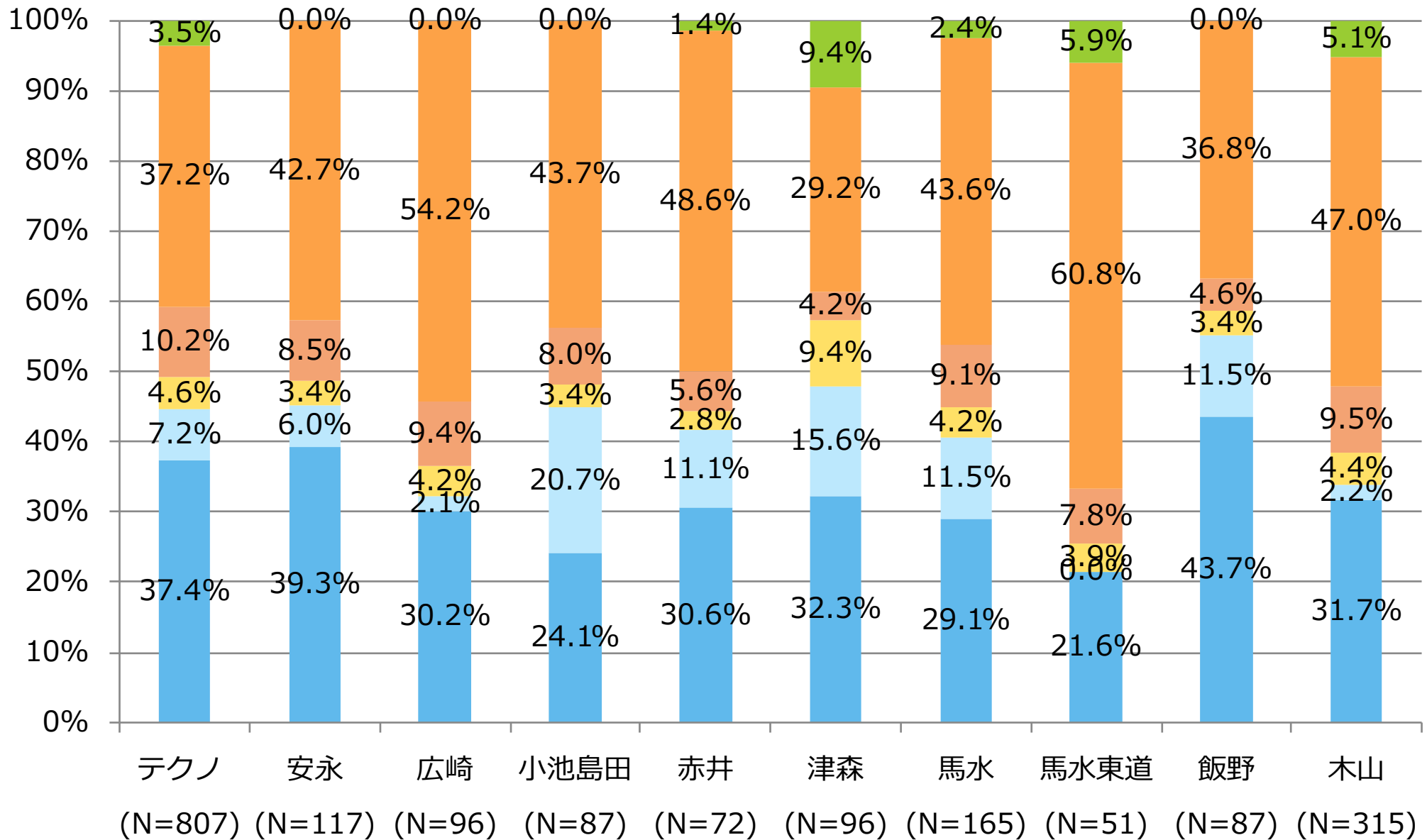
(2) 任意回答 益城町の復興計画を作るにあたって意見や要望等がありましたら教えてください。

問7 行政、大学などへの意見・要望も含めて、現在のお気持ち・心境をお寄せください。

ご協力ありがとうございました。概ね半年後に再度ご意見などをお伺いする予定です。

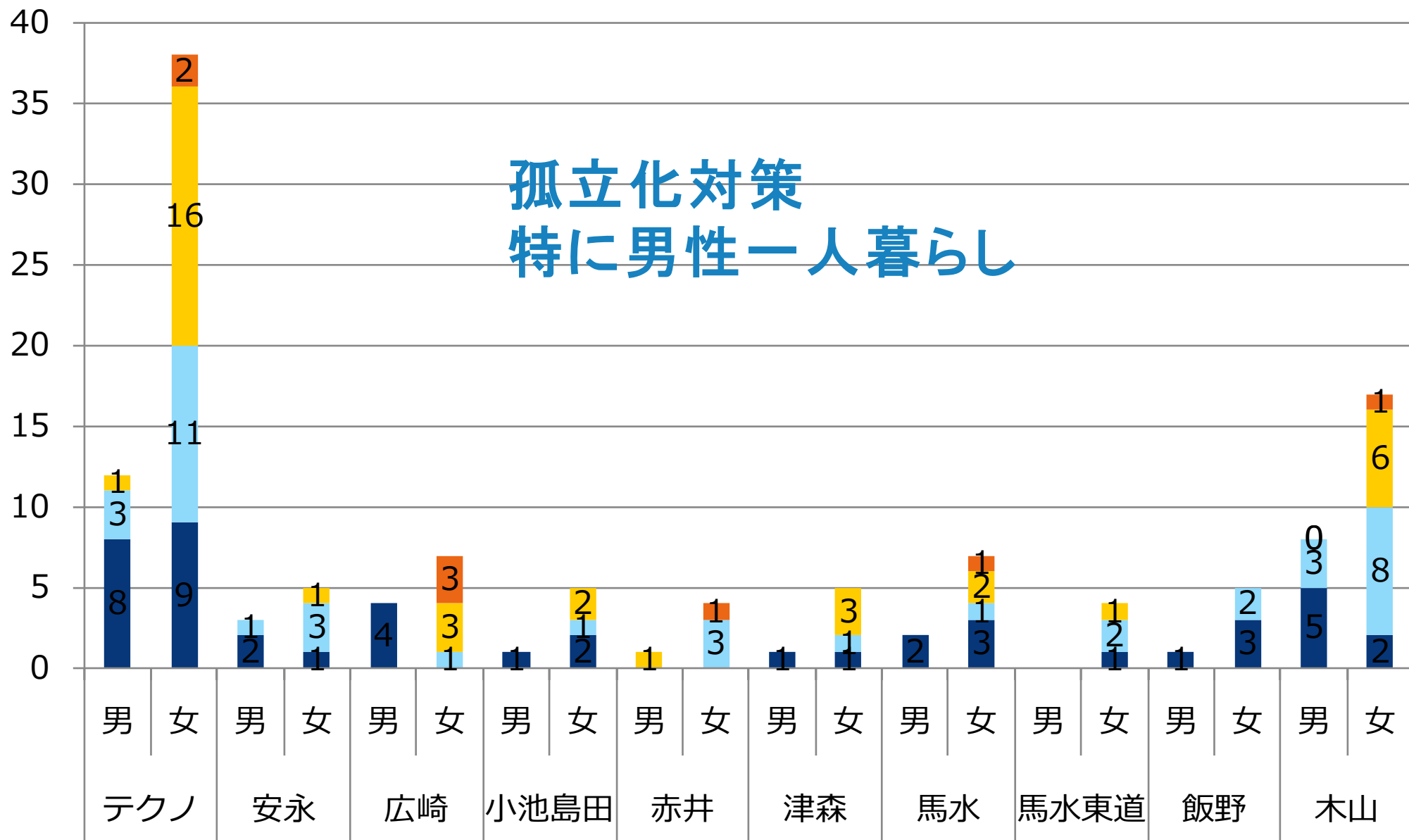
仮設団地別 入居者の就業状態

■ 就業 ■ 農業 ■ 主婦・主夫 ■ 学生 ■ 非就業 ■ 不明

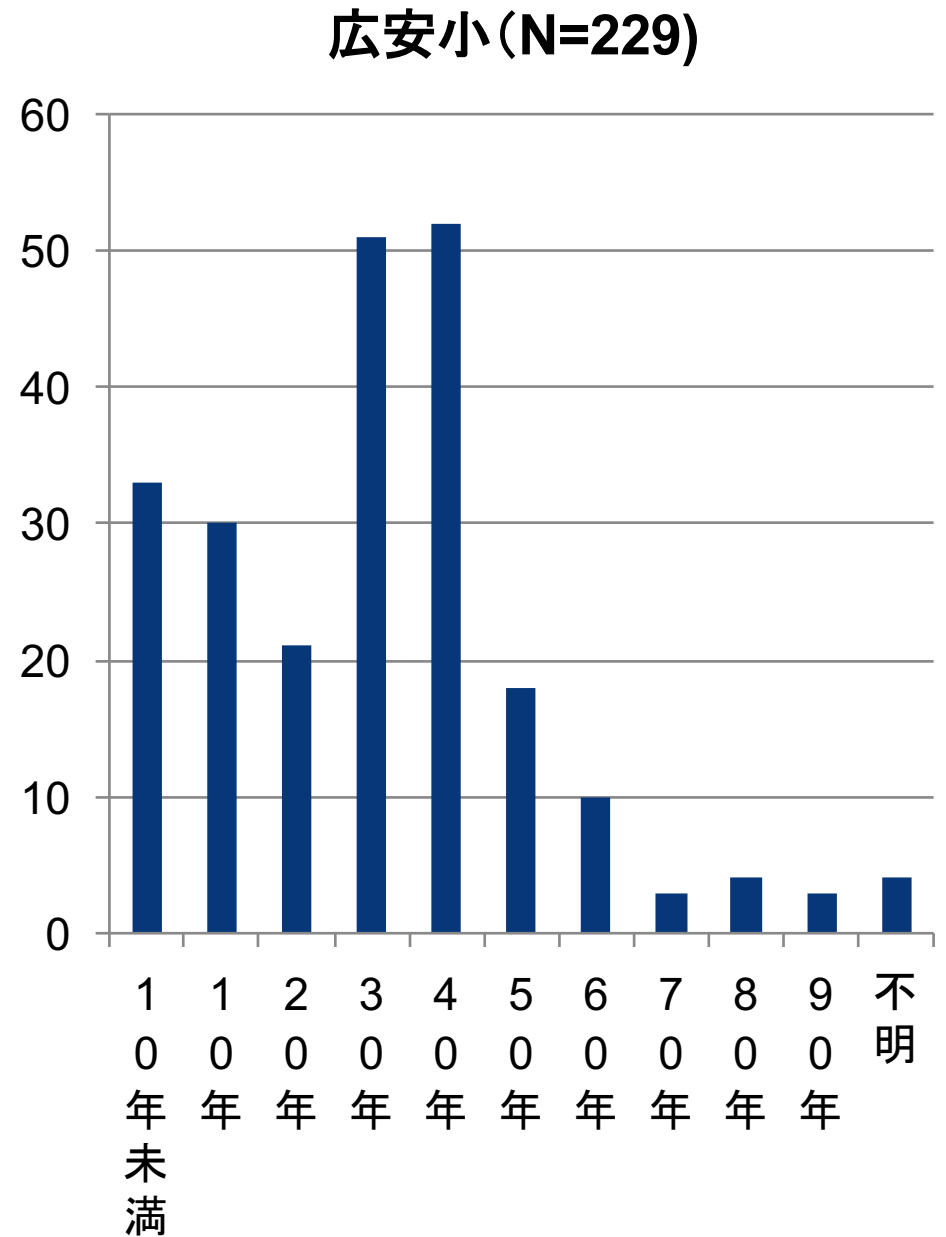
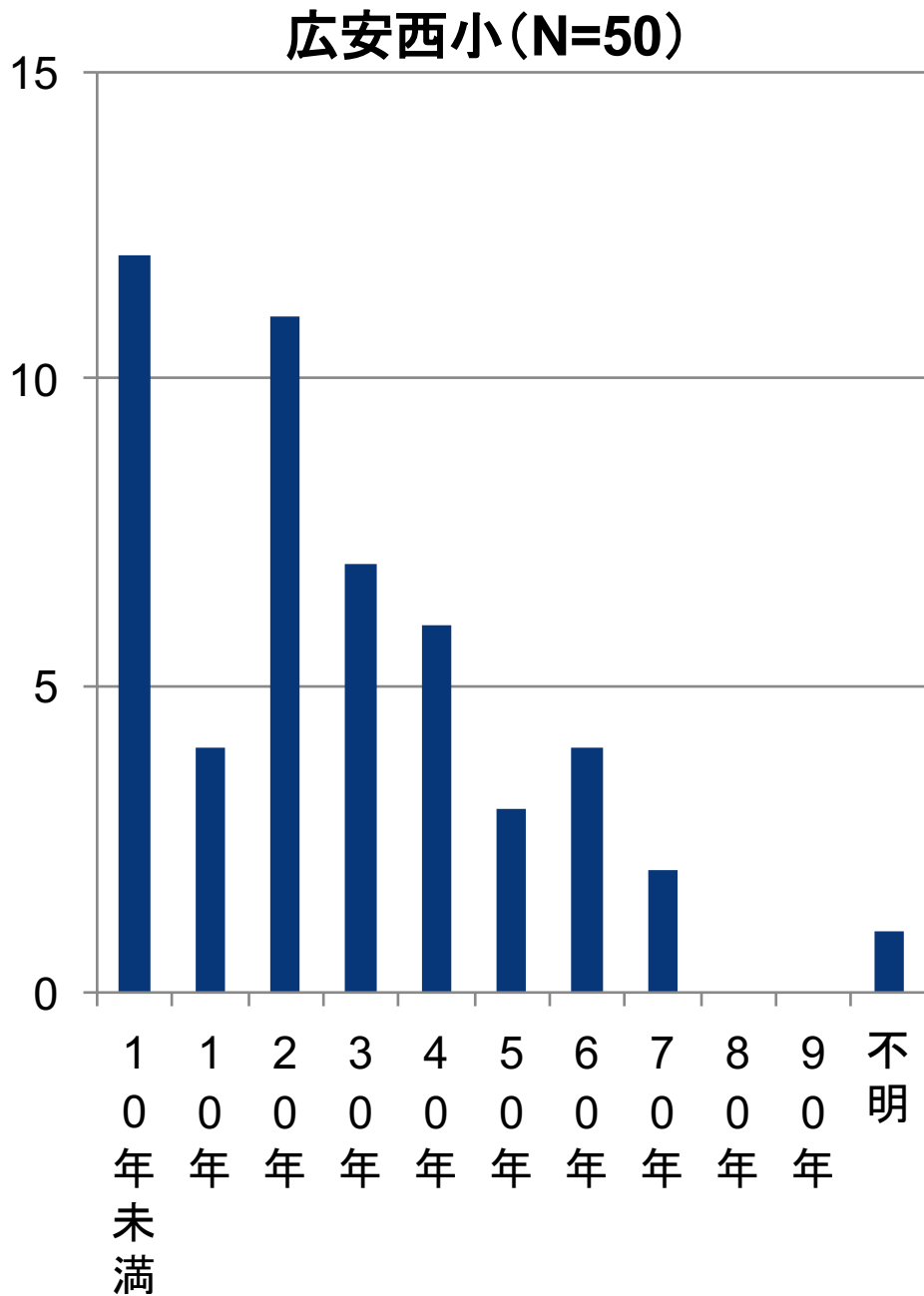


仮設団地別 一人暮らしの高齢者数

60代 70代 80代 90代

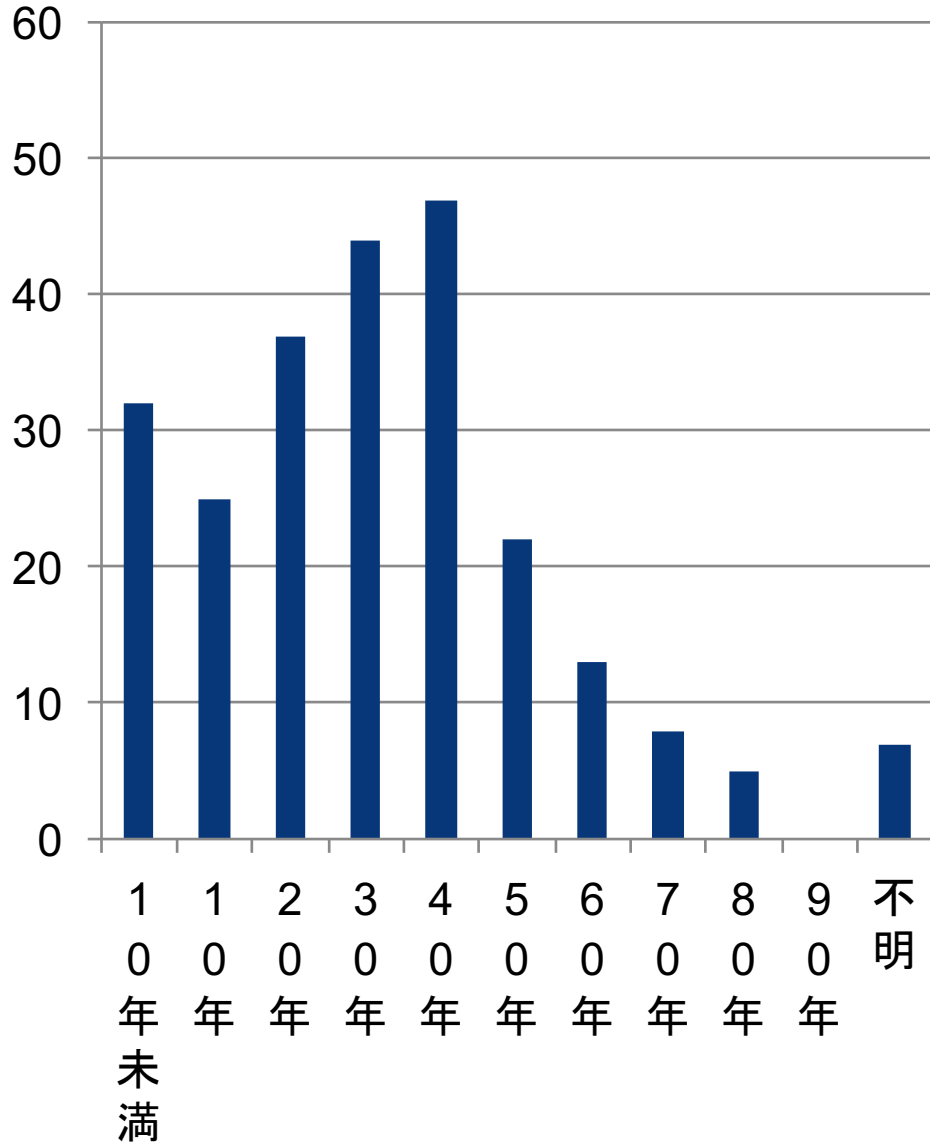


小学校区別 地震前の居住年数

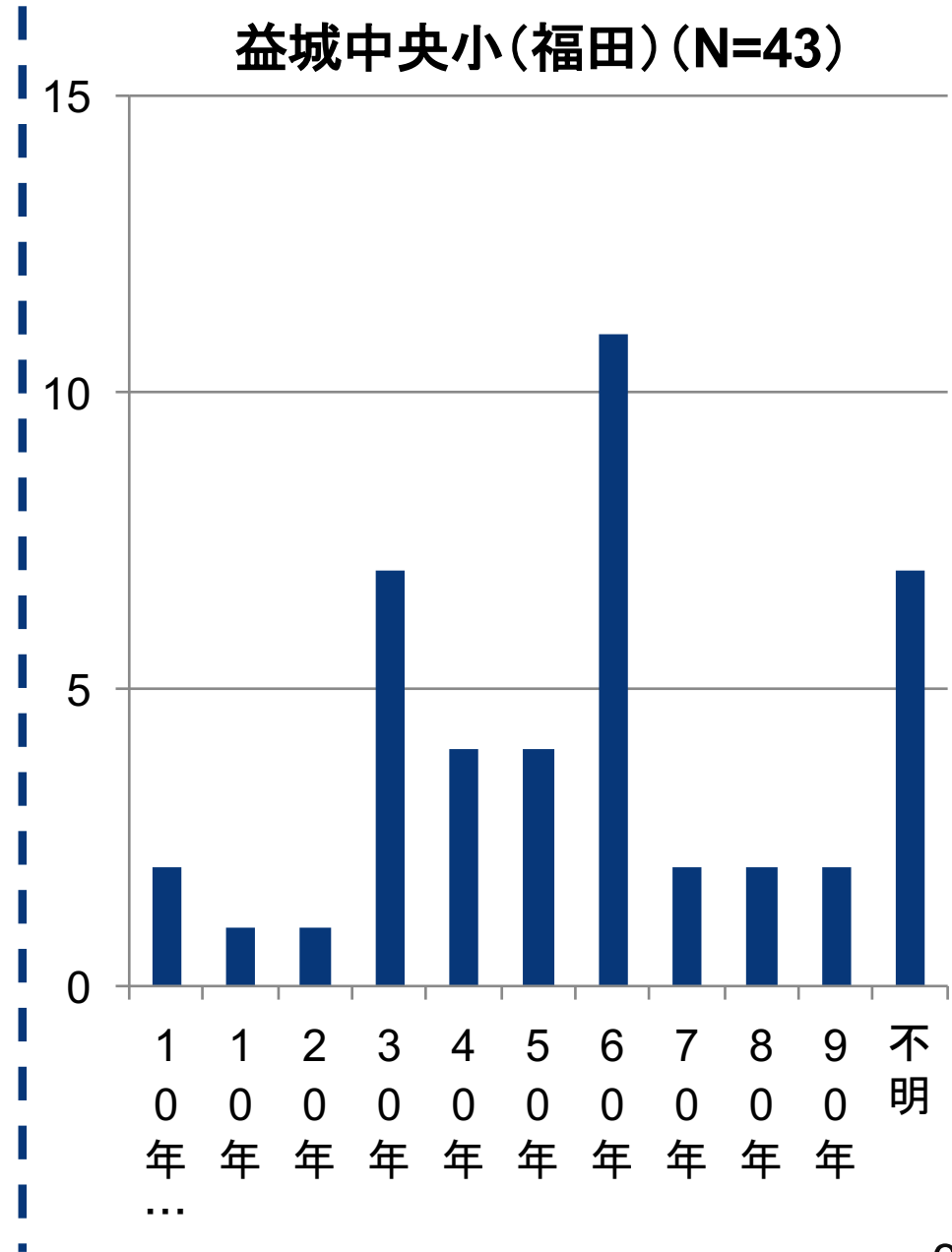


小学校区別 地震前の居住年数

益城中央小(木山)(N=240)

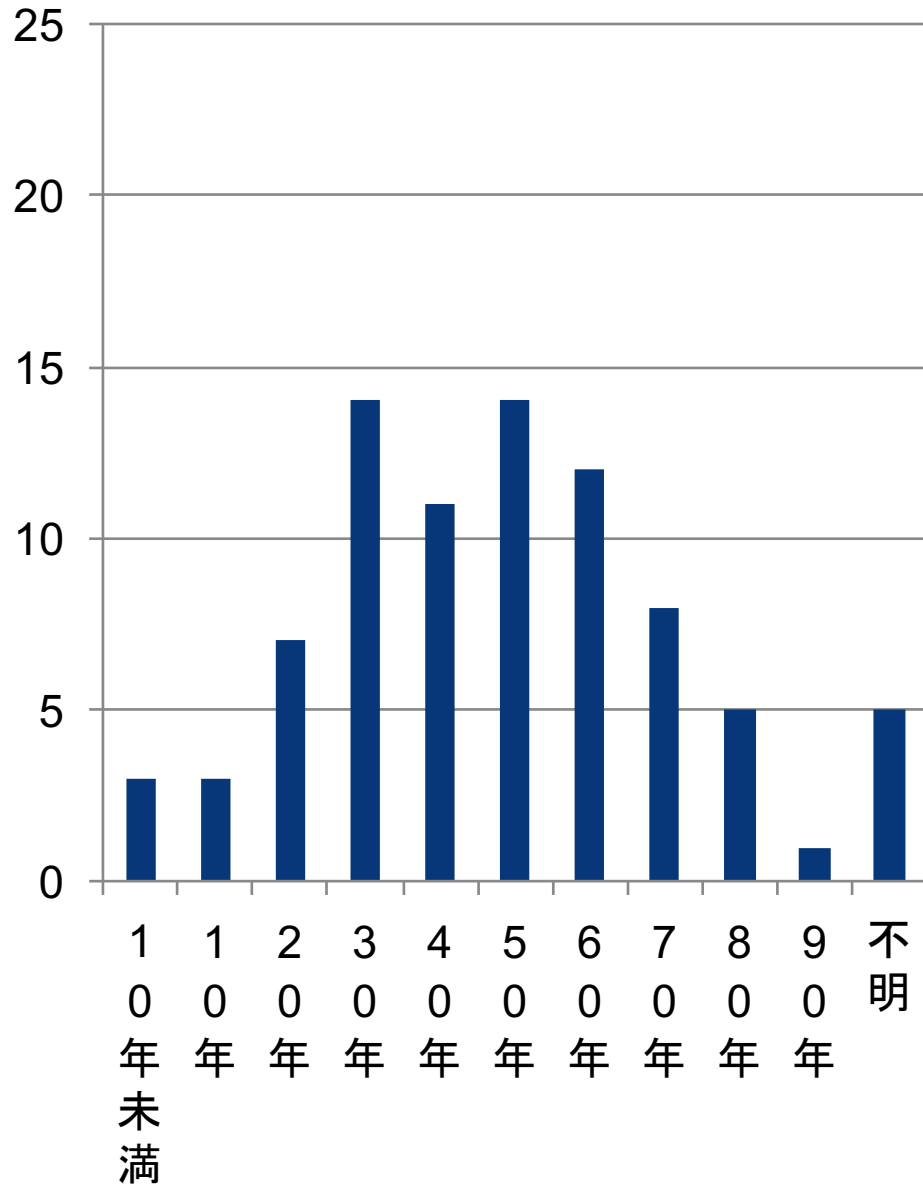


益城中央小(福田)(N=43)

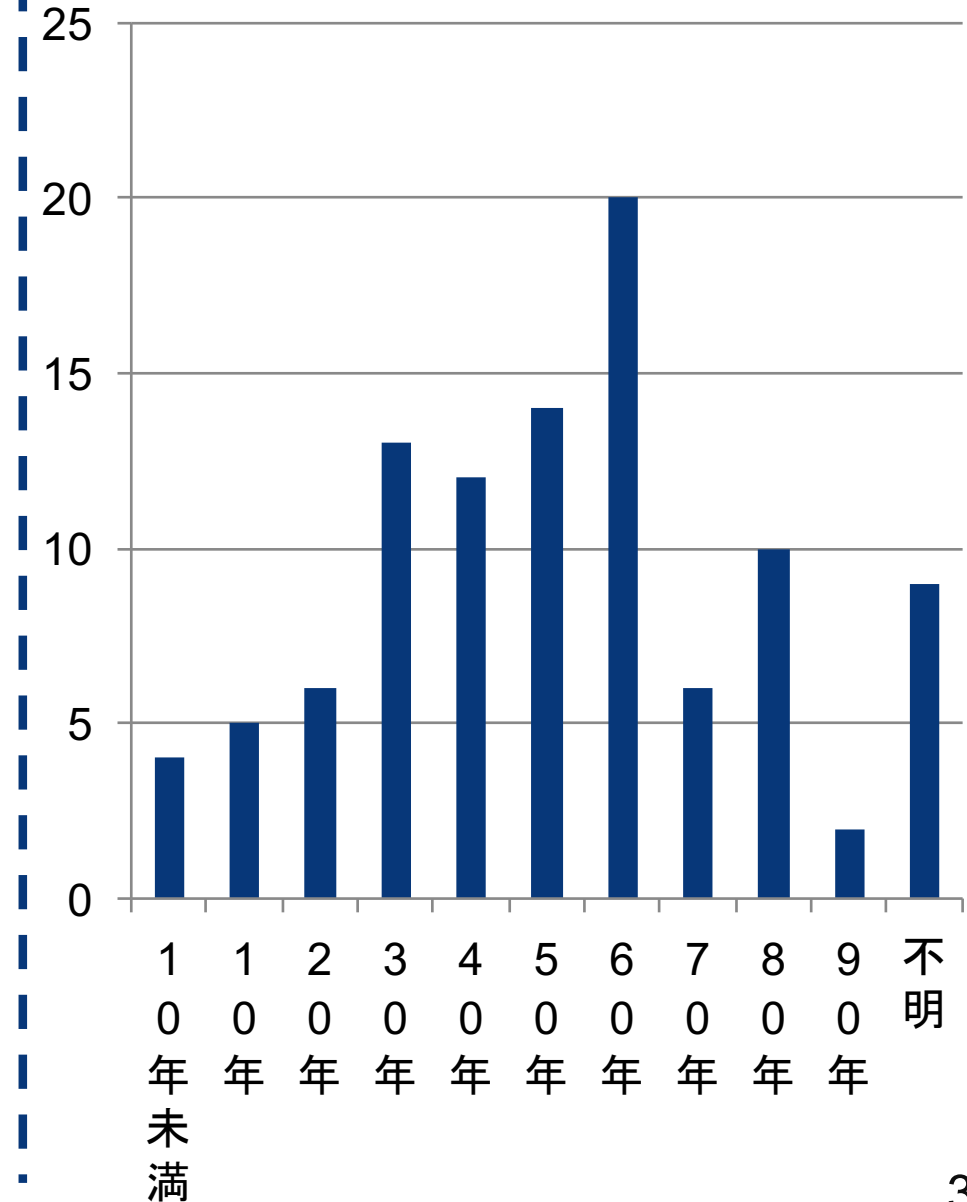


小学校区別 地震前の居住年数

津森小(N=83)



飯野小(N=101)



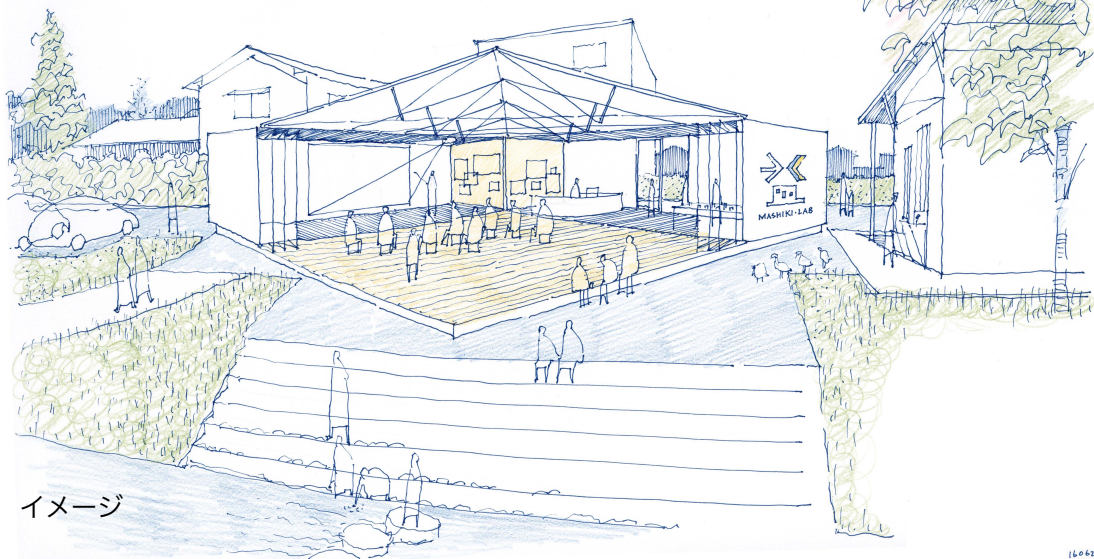


熊本大学星野研究室製作



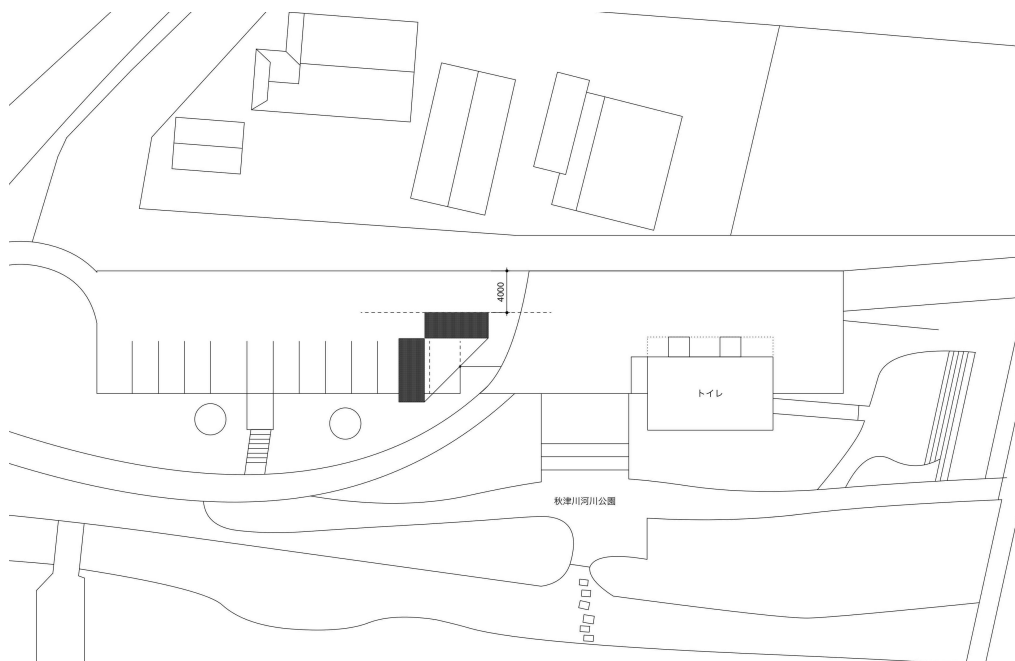
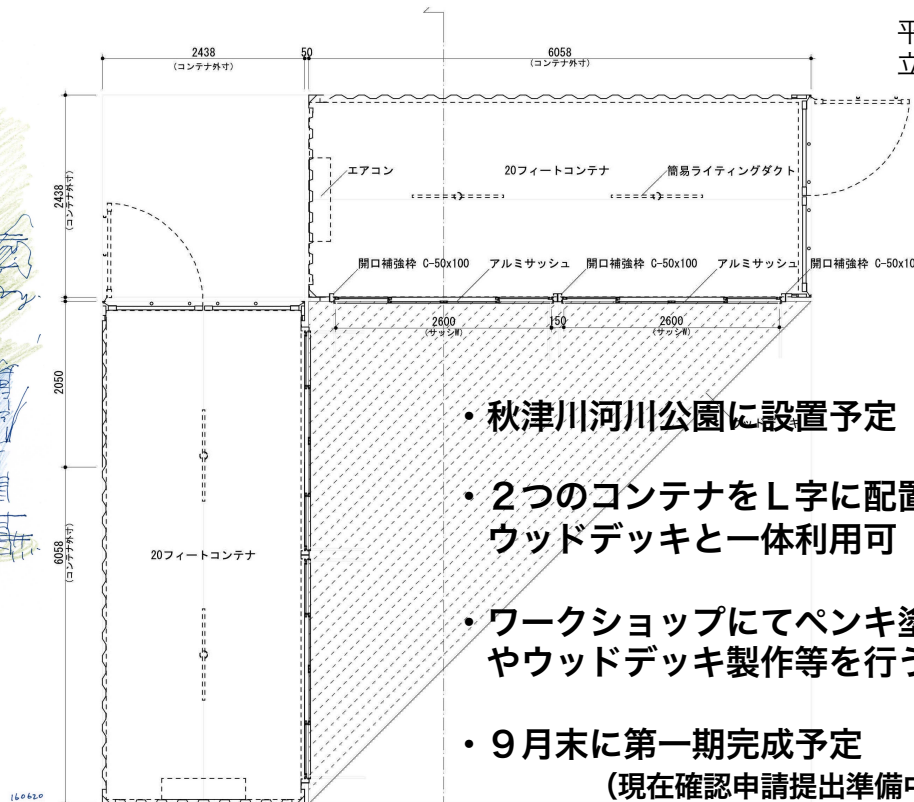
ましきラボ

まちからアクセスしやすい秋津川河川公園に
まちづくり拠点としてのラボを開設します。



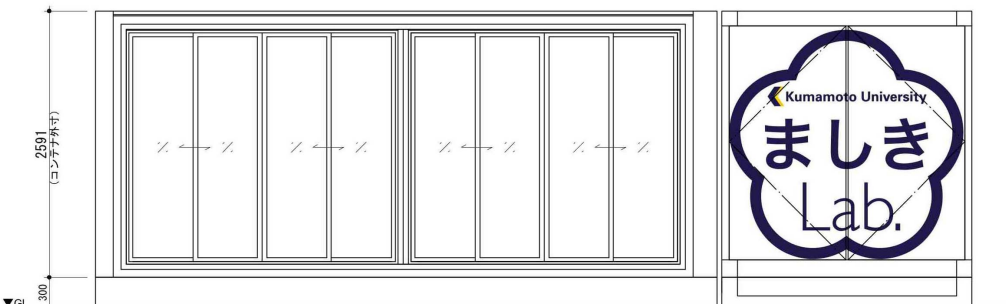
イメージ

平面図
立面図



配置図

設計 熊本大学建築学科 田中智之准教授



東側立面図 S. 1/50



設置予定地

住民の声

- ぜいたくは言えないが、仮設は狭い
- 車を運転できないが家族(知人)に送迎してもらい 病院や買い物へ行っている
- 空港から離着陸する飛行機を撮影するのが趣味 になった (テクノ団地居住者)
- 近所の方が近くの仮設に住んでいてよかった
- ポスト, ATM, 街灯, ミラー, 出張所等が欲しい
- 倒壊した家に埋まっている仏壇を早く拝みたい
- 高齢者だけでなく働く母親世代のことも考えて
- 熊本高森線は四車線化するべき
- 孫の世代に向けて地震に強いまちにして欲しい
- ラジオ体操をしたい
- 明るく楽しく仮設住宅での2年間を過ごしたい
- 若者があふれるまちづくりを！